

## 和仏法律学校講義録

著者	掛下 重次郎, 矢部 廉, 松岡 義正, 吾孫子 勝, 清水 澄
出版者	和佛法律學校
巻	3-15
ページ	1-63
発行年	1903-06-16
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/5488">http://hdl.handle.net/10114/5488</a>

（明神宗三十八年十一月四日第三種郵便物認可）  
（二）二十三日十五日十六日廿日廿一日廿三日廿四日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日（發行）

明治三十六年六月十六日發行

三十六年度 第三學年ノ十五

和佛法律學找講義錄

第百叁拾號

和佛法律學校



第三學年第十五號目次

民法	親族	法律學士 掛下重次郎
商法	手形	法律學士 矢部廉
破産	法	法律學士 松岡義正
民事訴訟法	自第六編(自二〇五)至第八編(至二二〇)	法律學士 吾孫子勝
行政	法	法律學士 清水澄
	(自一九三)至(二〇〇)	

雜報 ○外國人ト共有セル船舶ノ賣却○二罪ニ對スル一箇ノ偽證

090  
1903  
3-1-15

ナル場合ニ於テ之ヲシテ依然親權ヲ行ハシムルハ子ノ爲メニ不利益ナルコト論ヲ採タルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ裁判所ヲシテ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リテ親權ノ喪失ヲ宣告セシムルハ當ニ子ヲ保護スルノミナラス公益上亦此ノ如クスル必要アルヲ以テ本節ノ規定ヲ設ケタルナリ

親權喪失ノ宣言(第八九六條) 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

親權ノ喪失ハ親權者ノ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキニ限ル而シテ親權ノ濫用又ハ不行跡トハ頗ル漠然タル事實ニシテ如何ナルモノカ其標準ト爲ルヘキカハ法律ニ於テ之ヲ定メサレトモ親權ノ濫用トハ親權者カ法律ノ認メタル範圍ヲ超エテ其權利ヲ行ヒ又ハ法律カ認メタル範圍内ニ於テモ親權行使ノ方法其當ヲ得サルヲ附テ例ヘハ子ヲ懲戒スルニ當リ嚴打シテ創傷ヲ爲スカ如キ又ハ監護、教育ノ方法其當ヲ失シ又ハ財産ノ管理其當ヲ得サルカ如キ場合はナリ又著シキ不行跡トハ例ヘハ飲酒好色其度ヲ失シテ家事ヲ顧ミサルカ

090  
1903  
3-1-15

ナル場合ニ於テ之ヲシテ然則親權ヲ行ヤシテハ子ノ爲メニ不利益ナルハト  
論ヲ執ツテハ子ノ故ニ此ノ如キ場合ニ際テ裁判所ハ子ノ親族又ハ親事ヲ  
請求ス因リテ親權ノ喪失ヲ宣告セザルハ其儘子ヲ保護スルハ子ノ故ニ公益  
上亦此ノ如キ所必要ナルヲ以テ本節ノ規定ヲ設ケタルヲ對テ二思ハ非無  
親權喪失ノ宣言(第九六條)ノ父又ハ母ハ親權ヲ濫用シ又ハ害シテ不行跡ナル  
トキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコト  
ヲ得(第九七條)トモイテハ然則親權ノ濫用又ハ害シテ不行跡ナルトキハ其親權ノ  
親權ノ喪失ハ親權者ノ親權ヲ濫用又ハ害シテ不行跡ナルトキハ其親權ノ  
親權ノ濫用又ハ不行跡ナルトキハ然則親權ノ濫用トモイテ如何ナルモノカ其標準ト  
爲ルハ子ノ故ニ法部院ニ於テ決定スルハ其標準ノ濫用トモイテ如何ナルモノカ其標準ト  
爲ルハ子ノ故ニ法部院ニ於テ決定スルハ其標準ノ濫用トモイテ如何ナルモノカ其標準ト  
他ノ方法其當ヲ得タルヲ期シ例ハ其標準ヲ設ケルハ其標準ノ濫用トモイテ如何ナルモノカ其標準ト  
合是アリ又著シキ不行跡ナルトキハ其標準ノ濫用トモイテ如何ナルモノカ其標準ト



如キヲ削クニシテ此等ノ事實ハ總テ裁判所ニ認定ニ依ルコトヲ爲セリ  
親權ノ喪失ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ子ノ親族又ハ親權ヲ喪失シテ自之ヲ  
請求スル爲メコトヲ得ス法律カ子ニ此請求權ヲ與ヘテ所屬ナル子トシテ  
親ヲ訴フルハ名分ノ上ニ於テ許スヘカ事ナルヲ以テテ裁判所ニ依テ其請求  
此請求ニ關スル裁判所ノ管轄ハ親權者カ普通裁判所ノ有スル地方裁判所  
ナリ人事訴訟手續法第三一條ノ規定ニ依リテ其管轄ハ其管轄ノ  
財產管理權ハ喪失第八七條ノ親權ヲ行フ父又ハ母其管理ヲ失當ニ因リ其子  
ノ財產ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理ノ  
喪失ヲ宣告スルコトヲ得ル人事訴訟手續法第三一條ノ規定ニ依リテ其管轄  
父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フモ其管轄  
此規定ハ夫婦ノ財產關係ニ付キ規定セラレタル第七百九十六條第二項ト其趣  
旨ヲ同シウスルモノニシテ親權ノ濫用カ其全部ニ亘ラヌレバ單ニ財產ニ關ス  
ル親權ノ行使方法ヲ異リタル場合ナリ例ヘバ子ノ教育監護等ニ關スル親權行  
使ノ方法ハ宜キヲ得ルト雖モ親權者カ子ノ財產ヲ費消シ又ハ子ノ財產ヲ以テ

危険ナル商業ヲ營ミタルカ如キ場合ニ於テハ必ずスルモ親權全部ヲ喪失セシム  
ヘキ必要ナク唯財產ノ管理權ヲ奪ヘ其弊ヲ防クニ足ル故ニ法律ハ此ノ如キ  
場合ニ於テハ親權者ノ財產ノ管理權ノミヲ喪失セシムルコトヲ爲セリ  
此場合ニ於テモ管理權ノ喪失ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ親權喪失ノ請求  
場合ト同シタ子ノ親族又ハ檢事ニ限ル人事訴訟手續法第三一條ノ規定ニ依  
父カ親權者ナル場合ニ於テ親權ヲ喪失シタルトキ母アルトキハ母之ヲ行フ  
當然ナリ母ナキトキ又ハ母カ之ヲ辭シタルトキ若シハ母カ之ヲ行フ能ハ  
サルトキハ後見人カ子ノ財產ノ管理ヲ爲スルコトヲ第百九〇條第一號ノ規定  
ニ依リテ宣告ノ取消第八八條ノ前二條ニ定メタル原因カ止メタルトキハ裁判所  
ニ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得  
法律カ親權全部ノ喪失又ハ財產管理權ノミヲ喪失ヲ宣告セシメル規定ヲ設ケ  
タルハ已ムヲ得サルニ出タルモノニシテ其原因ニ於テ止メタルトキハ仍ホ  
其喪失ヲ繼續セシムヘキ理アラサルヲ以テ此場合ニ於テハ親權ヲ回復セシム  
ヘキコト當然ナリ而シテ此場合ニ於テハ裁判所ニ本人又ハ其親族ノ請求ニ因

失權を宣告し取消し其權利を得る者ト爲權利人專斷或手續續第三條第五項  
失權を宣告し取消し其權利を得る者ト爲權利人專斷或手續續第三條第五項  
受託人其權利を母に移し其場合ニ於テ父受託人トシテ行フモノトスルハ其  
母の財產管理權ハ拋棄第八九條親權ヲ行ク母の財產管理權ヲ辭スル者ト  
得實民法人專斷第五七條第二項ハ當然宣告スルモノト爲  
親權を喪失スル者ハ其權利を母に同時ニ移譲スル者故ニ親權者ハ之ヲ辭  
スルコト又得スルヲ原則トス然レトモ女子自然ノ性質ハ我邦實際ノ狀態トニ  
依テ婦人ハ往往財產ノ管理ニ適當ナラサル者アルヲ以テ母ハ限テ財產ヲ管  
理ヲ辭スルコトヲ許スル若シ父ハ許スルヲ許スルヲ天強ヒテ母ヲ子ノ利益ニ  
爲シテ不利ト爲シテ爲スルハ却テ子ノ利益ニ爲スルヲ不利ト爲シテ爲スルヲ  
法律ヲ許シタル此拋棄ハ單ニ財產ノ管理ニ限ルモノナラズ財產管理權ハ其子  
ノ身上ニ係ル事ニ付テ母ハ父ト同シテ其親權ヲ行ハサルハ其子ノ身體又保護  
權ハ財產ノ管理權以外ニ親權ハ拋棄棄許スルハ其子ノ身體又保護  
權ハ其親權最モ之ニ連シ之ヲ他人ニ委シ然レ親力屬ミテ其子ノ利益ニ反ス

ルコト大ナル所ナラズ法律ハ母ヲ以テ子ノ身體保護ヲ爲ス無テ適當ニ認  
定スルヲ以テ父ハ其權利を行使スルハ其子ノ利益ニ爲スルヲ不利ト爲シテ爲  
母ノ子ノ財產ノ管理ヲ辭シタルモノ第九百條ノ規定ニ依テ後見人又後見  
人ニ移シ母ハ子ノ身上ニ保護ヲ爲シ後見人其財產管理ヲ爲スルモノ第九  
三五條無効ハ無効ニ爲シテ其子ノ利益ニ爲スルヲ不利ト爲シテ爲  
ルモノ第九〇條後見人ハ其子ノ利益ニ爲スルヲ不利ト爲シテ爲

第六章 後見

後見トハ親權ヲ脱却タル未成年者及ハ禁治產者ノ身體及財產ヲ保護監督ス  
ル職務ナリ凡ソ秩序整然タル社會無在リテ其自身ノ身體及財產保護  
スル能力ナキ者ヲ保護セシメ之ヲ顧ミテ可ナルモノハ其非未成年者及ハ禁  
治產者ノ如キハ其自身ノ身體及財產ノ保護ヲ爲スル職務ナリ其子ノ利益  
上之ヲ保護スル機關ヲ設ケ其子ノ利益上本意ヲ規定スル後見人即チ此等ノ者  
ヲ保護スル機關外ナラズ其子ノ利益上未成年者及後見人依テ保護  
ヲ受クルハ其子ノ利益上其子ノ利益上其子ノ利益上其子ノ利益上其子ノ利益上

ヲ保護ヲ受ケ後見ヲ受タルコトハ未成年者ニ後見ヲ爲スル保護ヲ受タルハ其家ニ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權者ガ管理權ヲ有スル所ニ限ルナリ  
後見ハ未成年者及ヒ禁治産者保護ノ爲メ公法上設定セラルル職務ナリトモ之ヲ以テ直チニ公法職務ト謂フコトヲ得タルナリ何トナレバ國家ハ之ヲ規定ヲ設ケタレトモ自ラ其事務ニ干渉セザルモノニシテ後見ハ機關私ノ機關ニ屬シ國家ノ機關ニ非サレハナリ然レトモ後見ハ機關私後見人後見監督人又ハ親族會員ト爲ルハ職務ハ國家ニ對スル公法上ノ義務ナリナリ故ニ此等ノ機關ニ選定セラレタル者ハ正當ノ事由ナキトキハ之ヲ辭スルコトヲ得タルナリ(第九〇七條第九一六條第九四六條)

後見ノ職務ハ無償ニテ之ヲ行フ原則トス故ニ其職務ヲ執ル者ニシテ如何ニ長キ間如何ニ煩雜ナル事務ヲ執ルトモ之ヲ報酬ヲ請求スルコトヲ得タルナリ唯後見人ニ對シテハ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ與フルコトアレトモ其場合モ甚タ制限セラレ且是レ後見人ノ權利ニハ非サルナリ(第九二五條)  
本章ヲ分チテ四節トス第一節ヲ後見ノ開始トシ如何ナル場合ニ後見ノ開始セ

ラルヤヲ規定セ第二節ヲ後見ノ機關トシ如何ナル機關ヲ以テ後見ヲ行ハルヤヲ規定セ第三節ヲ後見ノ事務トシ後見人ノ職務權限及ヒ責任等ヲ明カニシ第四節ヲ後見ノ終了トシ其職務力終了タル場合ニ於ケル後見人ノ權利義務ヲ規定セタルヲ其間試メハコトイヘ歸ニ第八百五十五條ニ於テ之ヲ詳カニ論ズ

第一節 後見ノ開始

後見ノ開始ノ場合第九〇〇條「後見ハ左ノ場合ニ於テ開始スルニテ一ニ未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者ガ管理權又ハ其有セザルト雖モ受メコトイヘ同前ニ於テ未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ニ對シテ親權ヲ宣告アリタルトキ(第八條舊民法人專制第六一條第二二四條第二項)ニ於テ是レ也」  
後見ニ付セザルル者ハ未成年者及ヒ禁治産者ニ限ルモノニシテ其他ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ後見ニ付セザルルハ其法ニ在リタル例ハ未成年者及ヒ禁治産者ニ對シテ親權ヲ保護ヲ爲スルモ能ハサルナキトモ小若シ其者ガ禁治

產者心神能弱若無適當監督及浪費者ヲ諭ハキ者ナルト云ハルル中ハ概シテ  
 從從モ法律上特別ノ保護ヲ受ケルモノモ此場合ニハ保護人ヲ附シテモノ如シ  
 ナレバ見ルハ非ナルヲ云フ未成少年者ノ保護監督ニ關シテハ其前ノ條ニハ  
 第一、未成年者ノ後見  
 第二、親權ノ性質ニ付キ、説キタルカ如ク未成年者ハ親權ニ依テ保護ヲ受ケル  
 後見ニ依リテモ保護ヲ受ケルモノ同時ニ兩者ノ保護ヲ受ケルニ非ス未成年ノ  
 子カ其家ニ於テ父又ハ母ヲ有スルトキハ親權ニ依リテ保護ヲ受ケルガ如  
 父及母カ知レタルトキ死亡シタルトキ父及母カ最初ノ子ノ家ニ在ラ  
 ルトキ其家ヲ去リタルトキ其他父及母カ家ニ在ルトモ共ニ親權ヲ行フコト  
 能ハサルトモニ於テノ後見ノ開始アルモノトス又親權ヲ行フ者カ管理權ヲ  
 有セザルトモ其開始アルモノトス雖ニ第八百九十七條ニ付キ説キタ  
 ルカ如ク親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ヲ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危シクシ  
 トキハ其管理母ヲ喪失セシメタルルモ此等ノ場合ニ於テハ親權ヲ行フ者カ管理權  
 ヲトテ得ル(第八百九十九條)此等ノ場合ニ於テハ親權ヲ行フ者カ管理權

ヲ有セザルヲ以テ他モ子ノ財產ヲ管理スル者ナカズ是ヲ以テ子  
 ノ保護ヲ爲スニ後見開始アルモノト爲セタル但此條ニハ場合ニ於テハ後見  
 事務ハ制限セラレ未成年者ノ財產ニ關スル保護ニ關シテ有テ其他未成年者ノ身  
 上ニ關シテ事ニ付キテハ保護ヲ有セザル(第九三五條)然レモ説キタルカ如  
 ク親權ヲ行フ父又ハ母カ未成年ノ子ノ財產ヲ管理權ヲ喪失シタルトモ其身  
 上ニ關スル保護ヲ依然親權者ニ於テ爲スヘキモノトス(第九三六條)又ハ  
 第二、禁治產者ノ後見  
 第三、心神喪失ノ常況ニ在ル者カ禁治產者タルモノトス(第九三七條)又ハ  
 宣告ヲ受ケテ面シテ此宣告ヲ受ケタル者ハ第八條ニ依リテ後見ニ付セラルル  
 ノモノトス其之ニ付キタル時期ハ禁治產ノ宣告ノ是レノ時トシテ面シテ禁治產  
 ノ宣告シタル決定ハ人事訴訟手續法第五十二條ニ依リ禁治產者ノ法定代理人  
 又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其職務ヲ爲スモノトス其效力ヲ生シ  
 又法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送  
 達ヲ受ケタル日ヨリ其效力ヲ生スルモノトス

## 第二節 後見ノ機關

後見ノ機關ハ四アリ第一後見人第二後見監督人第三親族會第四裁判所是ナリ其親族會ハ後見ノ爲メノミニ設ケラレタルニ非スシテ其他後見ノ事務ニ屬セタル多クノ事務ヲモ掌ルヲ以テ之ヲ後見ノ章中ニ置カヌシテ別ニ一章ヲ設ケ之ヲ規定セリ

(一)後見人ハ後見ノ最モ重ナル機關ニシテ其理事者ナリ(二)後見監督人ハ後見人ノ事務ヲ監督スルモノナレトモ時トシテハ之ニ代ルコトアリ(第九一五條)(三)親族會ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ合議體ヨリ成ル機關ニシテ或ハ後見人後見監督人ヲ選定シ或ハ之ヲ監督シ或ハ之ヲ指揮シ右第一第二ノ機關ヲシテ十分ニ其職務ヲ盡シムルコトヲ謀ルモノトス(四)裁判所ハ總テ此等ノ機關ニ對シテ最上ノ監督權ヲ有スルモノニシテ國家ヲ代表シ公益ノ名義ニ依リテ無能力者ヲ保護スル任ニ當ルモノナリ而シテ裁判所ハ裁判所構成法律ニ依リテ手續法等ノ規定アリテ民法中ニ之ヲ規定スルノ必要アラサルナリ故ニ本

## 第一款 後見人

節ニ於テハ後見人及ヒ後見監督人ノ二機關ハミテ規定シ之ヲ二分ナリ

第一條 未成年者ハ後見人第九〇一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

第二條 親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得舊民法人事編第一六四條第一六五條ニ依リテハ親權ヲ行フ者カ遺言ヲ以テ未成年者ノ後見人ヲ指定シタル場合ニシテ法律ハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年者ノ後見人タルベキ者ヲ指定スル權ヲ有スルコトト爲セリ然レトモ父又ハ母カ一時親權ヲ有セシコトヲ以テ於テハ之ヲ喪失シタル後ニ於テモ後見人指定ノ權アルモノニ非ス又父及ヒ母共ニ順次親權ヲ行ヒタル場合ニ於テ其順序ノ前後ヲ問ハス孰レノ指定シタル後見人

モ有效ナリト謂フニ非ニ法律ニ據ル最後ニ親權ヲ行ヒタル者ヲ指定シタル者ヲ以テ有效ナルモノト爲セリ最後ニ親權ヲ行フ者ハ父ナルコトモ母ナルコトモアルヘシ父母共ニ生存スルトキハ父親權ヲ行ヒ父カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタルトキハ母之ヲ行フヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ其中ノ一人ヲ選サルヘカラス蓋シ最後ニ親權ヲ行フ者ハ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルハ後見ハ畢竟親權ノ延長シタルモノニ外ナラサルヲ以テ父カ死亡スルモ母カ親權ヲ行フトキハ別ニ後見人ヲ置カシ必要ナシ父ハ棄テ後見人ト爲ルヘキ者ヲ指定シ置キテ母ノ死後ニ之ヲ後見人ト爲ストスルトキハ二人ノ親權ヲ行フカ如キ者ヲ生セサルモ何年ノ後ニ在リテ後見人ト爲ルヘキカハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得母カ長ク生存スルトキハ其間ニハ嘗テ父ノ指定シタル後見人ハ死亡スルコトモアルヘタ又其他身上ニ非常ノ變動ヲ生ズルコトモアルヘタシタ常ニ親權ヲ行フ父ヲシテ後見人ヲ指定セシムルコトヲ爲ストキハ此ノ如ク不都合アルヲ以テ最後ニ親權ヲ行フ者ヲシテ後見人ヲ指定セシメ成ルヘタ實際ノ必要ニ應ジテ適當ハ人ヲ舉グルヲ得セシムル所以ナリ

最後ニ親權ヲ行フ者ニ限リ後見人指定ノ權利ヲ有シ又最後ニ親權ヲ行フ者ハ何人ト雖モ其指定ノ權利ヲ有ストノ原則ニ對シニ箇ノ例外アリ  
第一 最後ニ親權ヲ有スル者ト雖モ管理權ヲ有セザルトキハ後見人ヲ指定スルノ權利ナシ蓋シ說キタルカ如ク親權ノ中ニハ子ハ身上權及ビ管理權ノ二者ヲ包含スレドモ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ第八九七條管理權ノ喪失ヲ宣告スラレタルトキ又ハ母カ財產ノ管理權ヲ辭シタルトキハ親權ヲ行フ者ハ其一部身上權ノミヲ行フニ過キサルナリ而シテ親權ヲ行フ者ハ後見人ヲ指定スルハ其承繼人ヲ定ムルニ外ナラサルニ此場合ニ於テ管理權ヲ行フ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルモノト爲ストキハ親權ヲ行フ者ハ自己ノ有セザル職務ニ付キ其承繼人ヲ指定スルモノト謂フベシ是ハ金本法律精神ニ背タモノナラズ以テ此例外ヲ設ケタルナリ  
第二ノ例外ハ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルコト是カリ母ハ最後ニ親權ヲ行フトキハ父ト同シク後見人ヲ指定スルコトヲ得ルコト前ニ述ヘタルカ如



シ然レトモ若シ其母ニシテ父ノ生前ニ於テ豫メ管理權ヲ辭シタルトキハ母  
父ノ死後殘存シテ親權ヲ行フトモ是レ其一部身上權ヲ行ク經過ニシテ財產  
ノ管理權ニ有セサルヲ以テ母ハ此場合ニ於テ第一ノ例外ニ付キ叙述シタル  
理由ニ依リ自己管理權ヲ有セスシテ管理權ヲ有スル後見人ヲ指定スルコトヲ  
得セシムヘキ理アラサルヲ以テ此場合ニ於テ母アルニ拘ハラス母ナキ場合  
ト同シク父カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ヘキモノト爲シタリ  
親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定シ得ル場合ハ遺言ヲ以テスル場合ニ限ル之ヲ法  
律カ遺言ニ限リタルニ元來後見人ノ指定ハ自己ノ死亡後ヲ爲メニスルニ非テ  
レハ爲スコトヲ得サルモノナレハナリ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母カ其家ヲ去リ  
タルニ因リ其子ニ後見人ヲ要スル場合ニ於テハ從來親權ヲ行ヒタリシ者カ其  
家ヲ去ルニ臨ミ後見人ヲ指定スルノ權アラサルナリ此場合ニ於テハ第九百五  
條ノ規定ニ從ヒ親族會之ヲ選任スルモノトス又遺言指定ハ遺言者カ遺言ノ當  
時ニ於テ指定ノ權利アル者ナルコトヲ要スルコトハ論ラ埃タス(第一〇六三條)  
故ニ遺言ヲ爲ス當時ニ於テ本條ノ資格ヲ有セサルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ

生セス又其指定ハ遺言者カ其死亡ノ當時ニ於テ指定ノ權利アル者ナルコトヲ  
要ス例ヘハ遺言指定ヲ爲シタル後父又ハ母カ親權又ハ管理權ヲ喪失シ又ハ其  
家ヲ去リタル後ニ於テ死亡シタルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ生セサルナリ  
禁治產者ハ法律上ノ後見人(第九〇二條)親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產者ノ後  
見人ト爲ル  
妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルト  
キハ前項ノ規定ニ依リ  
夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルト  
キ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依リ(舊民法人事編第二二四條)  
第二項第三項  
本條ハ禁治產者ニ對シテ法律上當然後見人ト爲ル者ヲ規定シタルモノナリ未  
成年者ノ後見人ハ既ニ說キタルカ如ク先ツ之ヲ指定スル親權者ノ指定ニ依リ  
テ定マルヘシ但モ禁治產者ノ後見人ハ之ニ反シテ先ツ法定後見人ヲ定メ其  
後見人ナキ場合ニ於テ始テ親族會之ヲ選任スルモノトス然レバ未成年者





互ニ相愛スルノ情アリ又互ニ相扶タル以義務アルニシテ父母ニ比シテ一層親密ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲシテ後見人ノ職務ヲ行ハシムルハ最も其當ヲ得タリト謂フヘシ但配偶者カ禁治産ニ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ他ノ一方第九百七條ノ規定ニ依リ後見人タルトシテ辭シ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リ後見人タルコト能ハサルトキハ亦親權者ヲシテ其後見人ヲラシムルコトト爲セザルハキリ又禁治産者ニ未成人中ニ父又ハ母ハ在リ親權者人ノ親權者又ハ又夫カ未成年者ナルトキハ妻其後見人ヲラシムル親權者其後見人ト爲ル是レ他ナシ子カ未成年ナルトキハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ父又ハ母カ親權ヲ行フモノナレハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ親權者カ其後見人ト爲リテ之ヲ保護スルハ至當ノ事タルヲ以テナリ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リ未成年者及ヒ禁治産者ノ法律上ノ後見人(第九〇三條)前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルニキハ戸主其後見人ト爲ル舊民法人事編第一六六條第二二四條第三項ノ規定ニ依リテ禁治産者ニ共通スルモ未成年者ニ對シテ本條ノ規定ハ未成年者及ヒ禁治産者ニ共通スルモ未成年者ニ對シテ

ハ遺言ニ依リテ指定セラレタル者ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲シ禁治産者ニ對シテハ其禁治産者ノ何者タルカニ依リ父母夫妻若クハ妻ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲スコトハ前二條ノ規定スルカ如シ然レトモ時トシテハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定セラルコトアルヘク或ハ父母夫妻ノ孰レモナキ場合アルヘシ縱シ之アリトモ後見人タルコト能ハサル場合アルヘキヲ以テ此場合ニ於テハ後見人タルヘキ者ヲ定メサルヘカラサルモノニシテ本條ハ此等ノ場合ニ於テ其無能力者カ家族ナルトキ其戸主ヲ以テ後見人ト爲スコトト爲シタリ又ハ第九〇三條ノ規定ニ依リテ後見人ト爲ルニハ成年者タルヲ要ス(第九〇八條第一號)故ニ戸主カ未成年者タル場合ニハ家族ノ後見人ト爲ルコト能ハサルコトハ論ヲ俟タサルナリ然レトモ戸主カ未成年者タル場合ニハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者カ若クハ其後見人タル者アルヘシテ此場合ニ於テハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者若クハ戸主ノ後見人カ第八百九十五條又ハ第九百三十四條ニ從ヒ當然家族ニ對シテ後見人タルヘキナリ然レトモ此場合ニハ家族會ニ於テ別ニ後見人ヲ選定スヘシトノ說ナキニシモ非サルナリ(民法

民法親屬 第五 後見ノ制度

本條ハ現在在見人タリ又ハ親權ヲ行シ者カ有已盼意思ニ拘リテ其任務ヲ辭スル場合ニ於テハ直チニ後見人ヲ選任スヘキ必要アリ以テ之ヲ選任スル親族會ヲ招集セサルヘカリタルコトノ規定ハ此場合ニ於テ親族會ヲ招集スルニ付キ義務ヲ負ヘル者ハ第一、親權ヲ行フ母ハ財產ノ管理ヲ辭シタルトキ、第二、說キタルカ如ク(第八九條)親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル以テ此場合ニ於テハ第九百條第一號ニ依リ後見開始セラルヘキヲ以テ從來親權ヲ行ヒタル母カ親族會ヲ招集スルハ當然ナリ

第二、後見人カ其任務ヲ辭シタルトキ、後見人ハ其就任ノ前後ヲ問ハズ正當ノ事由ヲ減トシ其任務ヲ辭スルコトヲ得ル(第九〇七條)故ニ後見人カ之ヲ辭シタルトキ其後任ノ者ヲ選任スルカ爲メニ之ニ親族會招集ノ義務ヲ負ハシタルハ當然ナリ

第三、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リタルトキ、父又ハ母カ親權ヲ行フ子ト同時ニ家ニ在ルトキニ限ル(第八七七條然ルニ父又ハ母カ養子縁組婚姻本家相續再興其他ノ原因ニ因リテ家ヲ去リタルトキハ親權ヲ失フヲ以テ此場合ニ於テハ後見人選任ノ必要アリ而シテ從來親權ヲ行ヒタル者ニ後見人選任ノ爲メ親族會招集ノ義務

ヲ招集スル場合ニハ之ヲ裁判所ニ請求セサルヘカラス  
後見人ノ員數ハ第九〇六條ニ後見人ハ一人タルコトヲ要ス(舊民法第一六  
二條第二二六條)  
羅馬法及ヒ外國ノ立法例ニ於テハ往往ニ人人以上ノ後見人ヲ許セトモ佛民法第  
四百十七條ニハ後見人ノ外ニ副後見人アリ(我邦ニ於テハ此ノ如キ立法例ヲ採  
用セズ)二人以上ノ後見人ヲ許ストキハ實際ニ於テハ便利ナルコトアルヘシト  
雖モ後見人ハ親權ニ類スル權利ヲ行フモノニシテ親權ヲ行フ者ヲ一人ナリト  
爲ストキハ後見人モ亦一人トセサルヘカラス然レトモ後見人ニシテ二人以上  
アルトキハ其間ニ意思ニ衝突ヲ生シ隨テ家族上ノ紛議ヲ來シ又ハ各自其責任  
ヲ他ニ譲リテ被後見人ノ爲メニ不利益ナルコト多カルヘキヲ以テ本法ニ於テ  
ハ之ヲ一人ト爲メテ專斷シテ後見人ヲ其任務繁忙ニ堪ヘサルカ如キ場合尙於  
テハ第九百二十六條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使  
用スルコトヲ得ルカ故ニ實際ニ於テハ左程大ナル不都合アルヲ見サルナリ  
後見人請辭任第九〇七條 後見人ハ婦女ヲ除テ外左ノ事由アルニ非テレハ其

民法親族 後見 後見ノ機關

郡内ニ於テハ公務ノ餘暇ニ於テ後見人ノ任務ヲ爲ス可キを得ヘシト雖モ若シ後見人ヲ被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ任務ヲ執ルコトキハ其任地ノ離ルルコト能ハサル場合アルヘク之ニ強ヒテ後見人ノ任務ヲ執ラシムルコトキハ公務ノ妨ト爲ルヘシト此ノ如キ者ハ後見人タルトキハ十分ニ其任務ヲ盡スコト能ハスレバ被後見人ノ爲メ不利益タルヘク又後見人タルヘキ者ニ付テ言ヘバ甚タ苛酷ナルヲ以テ法律ニ此場合ニ於テハ後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ許セリ

公務ニ從事スルトハ官吏公吏公職務ヲ執ル場合ニミテ指スニ非スレバ公證人執達吏議會議員等ヲ公務ヲ以テ繼續シテ自己ノ業務ヲ執ルコトヲモ稱フナリ

(三) 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付テ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由ヲ消滅シタルコトハ遺言ヲ以テ親權者ヨリ指定セラレタル後見人第九〇一條其他法律ノ規定ニ依リ後見人タルヘキ者父母夫妻第九〇二條戶主第九〇三條其他ノ者第九〇四條カ法律ニ規定シタル事由本條及セ次條アリテ其任務ヲ辭ヘルカ若クハ後見人ト爲ルコトヲ得テ此場合ニ於テ

他ノ者カ後見人ト爲ルヘシト雖モ他ノ者カ後見人ト爲ル者ハ全ク元來後見人タルヘキ者ニ辭任又ハ後見人タルコトノ無資格ノ事由生シタルモ由ル故ニ其事由ニシテ止ミタルトキハ其者ヲシテ固有ノ順位ニ復シテ後見ノ任務ヲ執ラシムヘキハ正當ナリ例ヘバ(イ)遺言後見人カ軍人トシテ現役ニ服セルノ故ヲ以テ其任務ヲ辭シ(ロ)禁治產者ヲ後見人タル父又ハ母カ自己禁治產ノ宣告ヲ受ケテ後見人タル能力ヲ失ヒ(ハ)夫又ハ妻カ未成年者ナルトキ親權者カ其配偶者ヲ後見人ト爲リタル場合ニ於テ(イ)ノ軍人カ豫備役ニ入り(ロ)父又ハ母ニ對スル禁治產ノ宣告カ取消サレ(ハ)ノ夫又ハ妻カ成年ニ達シタルトキハ此等ノ者ハ法律上舊位置ニ復シテ當然後見人タルモノニ非ス此場合ニ於テ本條ノ規定ニ依リ後任ノ後見人カ之ヲ理由トシテ其任務ヲ辭スルコトヲ得ルニ止マレバ法律ハ何故ニ辭任又ハ除斥ノ原因止ミタルトキハ後見人タルカカリシ者ヲ當然後見人ト爲ササルカ是レ他ナシ後見人カ原體更スルニ被後見人ヲ爲ス概シテ不利益ナルト辭任又ハ除斥ノ原因中其消滅シタルヤ否ハ顯ル不明ナルモノアリテ之カ爲メ爭訟ヲ生スルノ虞アリ而シテ其裁判確定ノ結果往往ニ此ノ前

後見人カ一定ノ期間内其任務ヲ不當ニ行ヒ法律上後見人タルベキ者カ其任務ヲ行ハサリシカ爲メニ種種煩雜ナル問題ヲ惹起スヘキヲ以テナリ  
(四) 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコトニ未成年者ニ對スル後見ノ年限ハ豫メ一定スルモノニシテ如何ニ長クモ二十年ヲ超過スルコトヲタルナリ而シテ未成年者ニ對シタル最初ニ親權者アリテ之ヲ保護シ親權者カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタル等ノ場合ニ於テ後見ニ付セラルルコト多キカ故ニ二十年間後見人アルコトハ寧ろ稀ナルヘキナリ之ニ反シテ禁治産者ニ對スル後見ノ任期ハ豫メ何年繼續スヘキモノナルヤヲ知ルコト能ハサルナリ然ルニ正當ノ理由ナキニ於テハ禁治産者ノ畢生間モ繼續スル後見ノ任務ヲ辭スルコト能ハサルモノト爲スハ甚ダ醜ニ失スルヲ以テ禁治産者ノ後見人ハ十年ヲ經過シタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ルモノト爲セリ是レ外國ノ立法例ニ於テモ多ク見ル所ノ規定ナリ  
此規定ニハ例外アリ即チ配偶者直系血族及ヒ戸主カ後見人タル場合はナリ此等ノ者ハ當然禁治産者ヲ保護スヘキ地位ニ在ル者ニシテ若シ此等ノ者カ其後

見ノ任務ヲ辭スルトキハ之ヨリ一層關係ノ薄キ者ヲ以テ後見人ト爲ササルヘカラサルニ至リ頗ル不當タルヲ免レサレハナリ法文上ノ解釋トシテハ此但書ハ此等ノ者ハ後見ノ任務カ十年ニ滿タサルトモ辭スルコトヲ得ヘキ趣旨ト見ルコトモ得ヘシト雖モ本條規定ノ精神ニ依リテ前ノ如ク解釋セサルヘカラサルナリ

(五) 此他正當ノ事由 以上列舉シタル事由ハ法律カ認メテ以テ後見ノ任務ヲ辭スルニ足ルト爲シタルモノナレトモ此他ニ於テモ事實上後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ許スニ足ル事由アルナリ例ヘハ病身ニシテ其任務ニ堪ヘサル場合、公務被後見人ノ住所ノ市又ハ郡内ニ於テ從事スル多忙ニシテ到底後見ノ任務ヲ執ルコト能ハサル場合、一家生計ノ都合ニ依リ被後見人ノ住所ヨリ遠隔ノ地ニ移住セサレハ一家ヲ糊スルコト能ハサル場合、如キハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ許ササルヘカラス而シテ此正當ノ事由トシテ事實問題ニ屬スルヲ以テ裁判所ノ査定ニ依リテ定メラルベキナリ  
以上ハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ヘキ事由ナルカ婦女被後見人ナルト生



法律ハ以上ノ理由ヲ其任務ヲ辭スルコト得ルモ、誠ニ爲給與ニ女月主カ  
隱居ヲ爲ス場合第七五條及七六條ノ力親權者ナルトキ財產ノ管理ヲ辭スルヲ得  
ルコトニ付キ、叙述シタルカ如ク婦女ハ其格ニ於テ財產管理ニ適格ナ  
ルベシ之ニ後見人タル義務ヲ負ハシムルハ我邦ノ事情ニ適セザルヲ以テ此例  
外規定ヲ設ケタルナリ。左ニ掲ケタル者ハ後見人タル者ト得ル得ル  
後見人タル不能力第九〇八條。左ニ掲ケタル者ハ後見人タル者ト得ル得ル  
一 未成年者  
二 禁治產者及ヒ準禁治產者  
三 剥奪公權者及ヒ停止公權者  
四 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人  
五 破產者  
六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血  
族  
七 行方ヲ知レサル者  
一 後見人タル者ハ其職務ヲ履行スルニ當リ、

八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘズ事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡  
アリト認メタル者  
民法人事編第一八〇條乃至第一八二條第二六條  
舊民法人事編ニ於テハ後見人ノ缺格ノ場合ト除斥及ヒ罷黜ノ場合トヲ分テテ  
規定シ佛國民法モ亦然リ第四四二條乃至第四四九條ニ據ルモ本法ハ之ヲ一括シ  
テ本條ノ規定ヲ設ケタル故ニ本條ニ掲ケタルモノヲ詳細ニ分析スルハ其ノ最  
初ヨリ後見人ト爲ル能力ナキ者アリ、半途ニシテ其能力ヲ失フ者アリ又ハ元來  
ノ能力ハ有スルモ自己ノ過失不行跡等ニテ後見人タル者ト得ル理由ナルニ  
者其他種種ノ者アレトモ是レ畢竟罷黜レモ後見人タル者ト得ル理由ナルニ  
外ナラサルナリ。民法人事編第三十三條第三十三條第三十四條ノ賦  
後見人ハ被後見人ノ身上保護及ヒ財產ヲ管理スル重要ノ職務ヲ行フモノ  
ナリヲ以テ被後見人ノ爲メニ不利利益ト見ラレル者ハ之ニ任ズルコトヲ禁セザ  
ルヘカス。本條ニ列舉スル者ハ法律ヲ被後見人ノ爲メニ不利利益ナル者ト看  
做セタルナリ。而シテ此等ノ者ハ最初ヨリ後見ノ職ニ就クコトヲ得サルノミナ  
ラズ、且後見人ト爲ル理由合致雖モ當然其職ヲ失フ者ナリ。又ハ、後見人

(一) 未成年者ハ未成年者ハ自尙後見ニ服スル者ナレバ故ニ之ニ他入ノ後見人  
タルコトヲ禁ズルハ固ヨリ論ヲ排スル所ナリトシテ、  
(二) 禁治產者及ヒ禁治產者ハ是レ亦未成年者ノ如ク自ラ己ノ身上及ヒ財產  
ヲ保護スルコト能ハスシテ後見ニ付セラレ又ハ保佐人ノ補助ヲ必要ト爲ス者  
ナルカ故ニ到底他人ノ後見人タルニハ適セザルヲ以テ、  
(三) 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ刑法第三十二條第三十三條第三十四條ノ規  
定ニ依リ重罪ノ刑ニ處モラレタル者ハ終身公權ヲ剝奪セラレ禁錮ニ處セラレ  
タル者ハ其刑期間輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ監視ノ期間間公權ヲ停止セラ  
ルモノニシテ此ノ如キ者ハ信用少キ者ナレハ之ニ被後見人ノ財產ノ管理ヲ  
託スルハ被後見人ノ不利益タルト後見人タルコトハ一面ニ於テ義務ナレトモ  
亦他ノ一面ニ於テハ權利ナレハ國家カ以上ノ如キ犯罪者ニハ後見人タルコト  
ノ名譽ヲ有スルコトヲ得タルモノト爲シタリ但刑法第三十一條第七號但書ニ  
「親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスル」此限ニ在ラズトアレトモ是レ本條ノ規  
定ト牴觸スルモノニシテ刑法ノ規定ハ本條ノ規定ニ依リテ改正セラレタルニ

外ナラザルナリ  
(四) 裁判所ニ於テ免職セザル無効決定代理人又ハ保佐人ハ法定代理人例ニテ  
親屬者後見人不在者ノ財產管理人法人ノ理事清算人相續人ノ缺缺セル遺產ノ  
管理人遺言執行者又ハ保佐人等其任モ適セザルモノタルコトヲ認メラレタル  
者カ更ニ後見人タルニ適セザルコトヲ明カナルヲ以テ此ノ如キ者ハ一タニ裁  
判所ニ於テ免職セラレタルト爲ルニ更ニ後見人ト爲ルコトヲ得ズルモノト爲セ  
ル  
然レトモ是レ先ニ免職セラレタルコトカ裁判所ニ於テセラレタル者ニ限ル故  
ニ第九百十一條第一項第九百十七條第三項第九百十九條第三項ノ規定ニ依リ  
親族會ヨリ免職セラレタル後見人ハ此規定ノ適用ヲ受ケザルモノトス  
(五) 破產者ハ破產者ハ財產上ノ信用ナキ者ナレハ後見人トシテ之ニ財產ノ管  
理ヲ委ヌルハ被後見人ノ爲メ甚タ不利益ナリ而シテ民法施行法第二條第三條  
ノ規定ニ依リ家資分散者及ヒ以前身代限ノ處分ヲ受ケテ未タ其債務ヲ辨濟セ  
タル者ハ破產者ト同視セララルモノトス



[illegible]

ニ付キ特ニ其任ニ堪ヘサル者ト認メラレタルノ差アルナリ

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治產者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人

[illegible]

未成年者及ヒ禁治產者ニ於ケル後見人ト準禁治產者ニ於ケル保佐人ト其性質

程度薄キノミニシテ後見人ト其規定ヲ異ニスル理由アラサルヲ以テ後見

三人は、山を登り、谷間に下り、谷間の奥に、

反暴主人方氏里實有山莊智人

自己又ハ其代理スル第三者ヲ利益ヲ圖ル爲メニ其権利ヲ行使スルハ此場合ニ於テ保佐人

專禁治産者ノ爲サントスル行爲ヲ許可セシムルコトニ依テ

民法親族 後見 後見ノ機關

親權ノ效力ニ關スル第八十八條ノ規定ト同一ノ趣旨ニ出タル規定ナリ而シテ後見人ニ付テハ之ヲ監督スル者アリテ以上ノ如キ場合ニハ第九百十五條第四號ノ規定ニ依リ其監督人カ被後見人ヲ代表スルカ故ニ被後見人ノ利益ハ十分ニ保護セラルヘキ途アリト雖モ準禁治產者ニ付テハ此ノ如キ者アラザルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ特ニ設ケタルナリトイフニ可キハ誤會ニ付テ親權人

### 第一款 後見監督人

後見監督人トハ後見ノ一機關ニシテ後見人カ果シテ能ク其任務ヲ盡スル否キヲ監督シ或場合ニ於テハ被後見人ノ爲メニ自ラ必要ナル處分ヲ爲シ被後見人ト其後見人ト利益相反スル行爲ニ付テハ被後見人ヲ代表シ而シテ舊民法人事編ニ於テハ之ヲ置クコトヲ必要ト爲サザリ舊民法人事編第一六九條第二項ト雖モ後見ノ制ヲシテ弊害ヲカラシメテ欲セム之ヲ置クヲ必要ナルヲ以テ本法ニ於テ之ヲ親族會ノ自由ニ任置シテ必要置キ得ル爲メニ佛國民法亦然リ）  
 第四百九十二條第四項第二項第三項第三項第三項第一項

遺言後見監督人指定後見監督人トモ謂フ第九二〇條後見人ヲ指定スルモ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得舊民法人事編第一六九條第二項）  
 後見人ニハ遺言ヲ以テ指定シタル者第九〇二條法定後見人第九〇三條第九〇三條及ヒ選定後見人第九〇四條ノ三種アレトモ後見監督人ハ遺言ヲ以テ指定シタル者ト親族會ニ於テ選定シタル者トニ限レリ而シテ後見監督人ニ法定

ノ者ヲ設ケタルハ他ナシ後見監督人ハ後見人ヲ誰タルトノ定マザル上之ヲ監督スルニ適當ナル者ヲササルヘカヲササルヲ以テ法律上豫メ後見監督人ヲ定ムルヲ得サレハナリ第九〇三條第四項）  
 本條ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得ヘキ者ヲ規定シタルニシテ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ヘキ者第九〇二條ハ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得而シテ父母ハ時々異ニシテ各親權ヲ行フコトヲ得雖モ第九百一條ノ規定ニ依リ最後ニ親權ヲ行フ者ニ非サズハ後見人ヲ指定スルコトヲ得サルヲ以テ親權者ニシテ後見人及ヒ後見監督人ヲ指定シタルト雖モ必

此兩者ハ同一ノ人ノ指定ニ係ルヘキヲ以テ法律ハ同一ノ人ノ指定ニ係ル後見監督人ハ能ク後見人ヲ監督スルニ適シタル者ト看做シタルナリ然レトモ親權者カ此等兩者ノ中一人ヲ指定シ他ノ一人ヲ指定セザルコトアリ若シ後見監督人ニシテ指定セラレタリシトキハ次條ノ規定ニ從ヒ親族會ニ於テ之ヲ選任セザルヘカラス之ニ反シテ親權者カ後見監督人ノミヲ指定シテ後見人ヲ指定セザリシトキハ第九百三條及ヒ第九百四條ニ從ヒ戸主又ハ親族會ニ於テ選任シタル者後見人タルヘシト雖モ此場合ニ於テ後見監督人ハ前ニ定マレルヲ以テ果シテ其者カ後ニ定マレル後見人ヲ監督スルニ適スル者ナルキハ知ルコト能ハサルヘキナリ

選定後見監督人第九一一條 ○前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

選定後見監督人第九一一條 ○前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ

要ス(舊民法人事編第二六九條第二項第二七〇條)

前條ニ規定シタル指定後見監督人ナキトキハ親族會ニ於テ後見監督人ヲ選任スルモノトス而シテ之カ爲メニ親族會ヲ招集スルニハ法定後見人第九〇二條第九〇三條又ハ指定後見人第九〇一條カ其事務ニ著手スル前裁判所ニ之カ申請ヲ爲サザルヘカラス若シ後見人カ此手續ヲ爲サズシテ其事務ニ著手シタルトキハ其制裁トシテ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ法律カ後見人ノ事務ニ著手スル前親族會招集ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルト爲シタルハ蓋シ民法ニ於テハ被後見人ノ利益保護ノ爲メニ後見ノ機關トシテ後見人ノ傍ニ後見監督人アリテ始終後見人ヲ監視スルコトト爲シタリ故ニ若シ後見監督人ナキ場合ニ於テ後見人カ其事務ニ著手スルコトヲ得ルモノト爲ストキハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ私スルキモ知ルヘカラス又後見人ノ事務如何ニ不整頓ナリト雖モ之ヲ監督整理セシムル者アラズシテ被後見人ノ不利益ト爲ルヘシ又後見監督人ナクシテ後見人カ其事務ニ著手スルコトキハ法律カ第九百十七條ニ於テ後見人ニ命ジタル被後見人ノ財産ノ調査ヲ爲シ及ヒ其

目録又開製子然可也。能ハズルカハ何カ。然レ此財産を調査及ビ目録開製カ  
後見監督人ノ立會力ヲ爲スモト得ズ。又ハ九條第一項ノ「若シ」ハ特  
以上ノ義務ヲ負ヘル後見人ハ法定又ハ指定ノ後見人ニ限ル。若シ後見人ナクハ  
親族會ニ於テ選定セラルルモノ。第九〇四條ナリトモ、親族會ヲ招集ヲ請事  
スルヲ要ナクナリ。蓋シ法定後見人又ハ指定後見人カ後見人タリテ後見ノ開始  
ノ場合ナルヲ故シテ未ダ聘後見人ノ爲メニ親族會ヲ成立ビ居ラサル時第九四九  
條アリトモ法定後見人又ハ指定後見人ナクシテ親族會カ後見人ヲ選任セシ  
場合ニ於テ特ニ後見監督人ヲ選任スルカ爲メニ親族會ヲ招集スルノ必要ナ  
ク其後見人選任ノ爲メニ招集セラルル親族會ニ於テ同時ニ後見監督人ヲ招  
集スル可ナリ故ニ此場合ニ本條第三項ヲ設ケ親族會ニ於テ後見人ヲ選任  
セラルル上ニ第九〇四條ニ直ニ「後見監督人ヲ選任スル」カ爲メニ  
ナリトモ「ハ」ニ而テ「カ」ニ雖親族會ニ招集セラルル後見人ノ選任  
後見監督人ノ改選（附）第九百廿九條カ後見人就職カ後後見監督人カ缺ケタル  
トモ、後見人ハ海濱ノカ親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要

ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用シ、舊民法人事編第一六九條第二項  
第二項第六七〇條（註）<sup>三</sup>ハ適用セズ。又監督人ノ職務ニ關シテハ其職務ノ性質上  
前條ノ後見人就職之際後見監督人ナリキヲ以テ之ヲ選任シ方合法ノ規定ニ依  
ルモノナレトモ本條ノ之ヲ異ナシタ後見人就職之際後見監督人アリキモ其  
後ニ至リテ缺ケタル場合ヲ規定セリ後見監督人ヲ選任セラレタル者カ死亡シ  
タルニ因リ缺ケタルコトアリ或ハ第九七條ノ事由アルニ因リ辭任サルコトア  
リ（第九一六條或ハ第九百八條ノ事由アルニ因リ免職セララルコトアリ此等ノ  
場合ニ於テハ速ニ前後見監督人ノ後任ヲ選任セサルヘカラスルヲ以テ後見人  
ヲシテ遲滞ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムル要スル爲メ  
リ而シテ此場合ニテモ後見人カ此義務ニ違反シタルキハ之ニ前條ト同一ノ  
制裁ヲ加ヘ親族會ニ於テ免職スルコトヲ得ルモノト爲セリ蓋シ是皆此場合ニ  
於テモ後見監督人ハ被後見人保護ノ爲メニ一日モ缺クヘカラスルモノナルニ  
後見人カ後見監督人ナキニ知リテ決然之ヲ委任スルコトヲ爲ササルニ  
不正ノ行爲ヲ爲ス爲メカ然ラザルハ非常ノ怠慢者ナルヲ以テナリ（附屬八ノ四）

本條ニ於テハ前條與テ異テ後見人未自ラ親族會ヲ招集スルハ被後見人ノ爲ニ既ニ親族會議設ケルヲ以テ別ニ裁判所ニ之ヲ招集ヲ請求スルノ必要ナクハナリ(第九四九條) 遺言人親屬ノ數ニ一ヨリ遺言人ノ被後見人ニシテハ(第九百十三條) 後見人ハ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケス(第九百四十一條) 新後見人ハ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滞ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ハ行爲ニ付キ之ヲ連帶シテ其責ニ任ス(第九百四十二條) 後見監督人ハ改選ハ後見監督人自身ハ缺ケタル場合ニ限ルモ非ス後見監督人ハ依然タルモ後見人ヲ更迭アリタルトキハ亦改選セラルルモノトス是レ後見監督人ノ職務ノ性質ヨリ生スル規定ナリ後見監督人ハ後見人ノ職ナルヲ定マリタル後之ヲ選任スルヲ原則ト爲シ繼ニ叙述シタル如ク後見監督人ハ後見人ハ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤヲ監督スル者ナレハ後見監督人ヲ選任スルニ當リテハ其後見人トシテ間ニ於ケル親族上財產上權利ノ關係從テ之ヲ經理

年齡及ヒ智能等ヲモ參考ト爲シ此後見人ナルヲ故ニ彼ハ後見監督人ニテ適當ナリト爲シ總テノ標準ヲ後見人ニ取リテ之ヲ定メタルモノナル故ニ若シ其標準タル後見人ニシテ更迭アリタルトキハ之ニ伴ヒテ後見監督人ヲ改選スヘキハ當然ナリ然ラザレバ智能其他ノ關係ニ於テ後見監督人ニ屬シタル後見人就任シタルトキハ以前ヨリ繼續スル後見監督人ニテ到底新任ハ後見人ヲ監督スルヲ得サルコトアルヘシ故ニ後見人更迭ノ場合ニ於テ親族會ハ後見人ヲ選任シタルトキハ其選任ト同時ニ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要スト爲シタル然レトモ實際前後見監督人ニシテ新後見人ヲ監督スルニ選任ナルニ於テハ親族會ハ前後見監督人ヲ再選スルコトハ毫モ差支ナキヲ以テ但書ノ規定ヲ加ヘタル所以ナリ(第九百四十一條) 遺言人親屬ノ數ニ一ヨリ遺言人ノ被後見人ハ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ例ニ依リテ指定遺言ヲ以テ前後二人ノ後見人ヲ指定シ甲死亡セハ乙ヲ後見人トシタル如キ場合ハ決定ノ後見人タルトキハ後見監督人ハ自ラ遲滞ナク親族會ヲ招集シ自己ヲ改選ヲ爲サシメサルヘカラズ而シテ此場合ニ於テモ親族會ハ前後見監督人ヲ適當ト認

トルニ於テハ同シタ再選スルコトヲ得ヘキナリ。又ハ後見監督人ノ職務ヲ以テ之ヲ改選スルコト  
後見監督人カ若シ指定又ハ法定後見人ト新ニ就職シタル者ハ自己ノ改  
選ヲ爲スヘキ手續ヲ盡ササルトキハ親族會ハ其職權ヲ以テ之ヲ改選スルコト  
ヲ得ルハ勿論ナレトモ後見監督人ハ著シキ怠慢者又ハ新後見人ト通謀シテ私  
曲ヲ行ハント欲スル者ト看做シ新後見人ノ爲シタル行爲ニ付テハ之ト連帶シ  
テ其實ニ任スルコトト爲シタリ。又ハ後見監督人ハ其職務ヲ怠ラシメ或ハ  
此制裁ハ後見監督人ニ對シタリノミ存シ親族會カ第一項ノ場合ニ於テ後見監督  
人ノ改選ヲ怠リタル場合ニハ如何ナル制裁モ之ヲキモノ如ク疑フ者アルハ  
シト雖モ親族會ニ對シテハ第九百五十三條ノ規定アルカ故ニ其改選ヲ怠リタ  
ルカ爲メニ被後見人ニ損害ヲ生シタルトキハ其責ヲ辭スルコト能ハズナリ。  
後見監督人タル不能力第九一四條ノ後見人ノ配偶者直系血族又ハ兄弟姉妹ハ  
後見監督人タルコトヲ得ス。又ハ後見監督人タル不能力第九一四條ノ後見  
後見監督人タルコトヲ得サル場合ハ種種アリ後見人タルコトヲ得サル場合  
如ク第九〇八條無能力者破産者又ハ裁判所ニ於テ不適任ト認メラレタル者ナ

ルカ故ニ後見監督人ト爲ルコトヲ得サルコトアリ第九一六條又後見人ト後見  
監督人トノ關係上或種類ノ人ニ限リテ之ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得サルア  
リ如何ナル者ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得ヘカヲサルモノト爲スカハ諸國ノ  
立法例同シカラス佛國民法第四二三條ノ如キハ或場合ヲ除ク外ハ後見監督  
人ハ之ヲ兩系父系母系ノ中後見人ト屬セサル系中ヨリ之ヲ選擇スヘキモノト  
爲セリ。又ハ後見監督人ト爲ル者ハ其職務ヲ怠ラシメ或ハ私曲ヲ行ハント  
本條ハ即チ後見監督人カ後見人ト親族關係ヲ有スルカ故ニ法律カ後見監督人  
タルコトヲ禁シタル規定ナリ後見監督人ハ屬叙述スルカ如ク後見人ヲ監督ス  
ル職務ヲ有スルカ故ニ最も公平ニシテ偏頗ノ惡ナキコトヲ要ス。餘ルニ後見監  
督人タルヘキ者カ後見人ノ配偶者直系血族及ヒ兄弟姉妹等ノ如ク近親ノ間柄  
ニ在リテハ其愛情最も深キヲ當テ後見人カ私曲又ハ不行跡等ノ事  
アルトモ情實ニ流レテ後見人ト庇護シ十分ノ之ヲ監督スルコト能ハサルコト  
アリ此ノ如クナルトキハ被後見人ノ不利益ナルヲ以テ法律ハ以上列記タル者  
者ヲ以テ後見監督人タル資格ナシト爲ルカ所ナリ。又ハ被後見人ノ利益ヲ害スル





カハルトキ被後見人ハ其法定代理人ナラ法律上ノ保護ヲ受ケルカ故ニ  
見監督人ハ被後見人カ死亡シ喪失セ又ハ辭任ヲ爲ス等ニ於テハ其就任  
於テ之ニ代ハルルカ法定者ニ指定後見人アルトキハ選任セシメナルヘカ  
促シ若シ又法定後見人ナラキハ親族會ヲ招集シテ之ヲ選任セシメナルヘカ  
第三急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スニ  
後見ノ事務ハ被後見人ノ行ヒ後見監督人ハ之ヲ行ハサルヲ常トスレモ後見  
人カ更迭シ後任者ハ未タ就任セサルカ如キ場合ニ於テ急ヲ要スル事務アル  
トアル例ヘハ被後見人カ訴訟ノ當事者ノ一方ニシテ上訴其他急ニ爲ササル  
カラサル訴訟行爲ヲ爲スニ當リ後任者ノ就任ヲ待ツトキハ失權利ヲ生スル  
如キ場合ニ於テハ後見監督人ハ被後見人ヲ爲メ自ラ適當ノ處分ヲ爲ササル  
カラス又風水害ニ遇ヒテ家屋ノ破損シタルカ如キ場合ニ於テモ速ニ其應急工  
事ヲ施ササルハ被後見人ノ不利益タル場合ニ如キモ亦後見監督人ハ自ラ必要  
ナル處分ヲ爲ササルヘカラス而シテ後見監督人カ此處分ヲ爲スハ被後見人ハ快

役者ハ作成ス必要ナラズ其作成ハ主幹料者償還規則ニ依リ當然力又  
償還請求ヲ行フ付託者通知ヲ要スルハ以テ賠償ノ費用ハ償還規則ニ依リ  
當然ノ事トス茲ニ其他費用中ニハ拒絕證書作成費用等毎金一圓ニ算入  
ト雖モ其費用以外ノ費用如何ナルハ其金一圓ニ算入セシメ支拂ハズ本條ノ廣  
義ニ解シ如何ナル費用ハ包含スルモノト論ハズ之ヲ得者一應ニ法律ノ用  
語トシテ其他大凡文字ハ拒絕證書作成ノ限ニ及ビ償還請求ノ必要ナル限  
有テハ包含スルニ限ルモ之ヲ解キテ利便ナク其他人費用中ニハ拒絕  
書作成ノ費用通知ノ費用等毎金一圓第一條第二項ニ據合ハテ賠償ノ費用  
力爲メ之ヲ要スル費用ハ如前ニ算入シ賠償ノ費用ハ償還請求者他ノ償還請求  
者ニ對シテ提起シタル訴訟費用又係引受人ノ對シテ提起シタル訴訟費用ノ如  
キハ包含スルニ限ラズ賠償ノ受取訴訟費用ハ第四百六十六條第四百六十七條  
該二問題ハ爲メ第四百九十七條該二條ニ據賠償ノ費用ハ主幹料者  
由リ受取訴訟書作成ノ手数料又包含スルニ否ニ依リ賠償ノ費用ハ主幹料者  
由リ受取訴訟書作成ノ手数料又包含スルニ否ニ依リ賠償ノ費用ハ主幹料者



債還請求權ニハ何等ノ關係ナキモノトモ又ハ之ヲ作成セザレバ債還請求權ヲ喪失スルモノトモ又ハ後者ノ場合ニ於テハ引受拒絶證書作成ノ手数料ヲ償還セザレバ得ザルモノトモ又其作成ニ伴フ費用ヲ請求スルモノトモ得ザルモノトモ此ノ如キ種類ノ引受拒絶證書ハ第四百六十六條第四百六十七條第一項第二項並ニ第四百七十二條ノ規定ニ依リ得ザルモノトモ第三項ノ引受拒絶證書ニ付テハ其手数料ヲ勿論費用ヲ償還セザルモノトモ得ズルモノトモ債還金額ハ第四百九十一條第一項第一號及第二號ヲ以テ定ムルモノトモ債還請求者カ債還金額ノ支拂ヲ受ケ公平ニ賠償ヲ得シカ爲メニハ債還義務者カ支拂地ニ在ル場合ナラサルヘカラス然レドモ若シ債還義務者ノ住所地方支拂地以外ニ在ル場合ニハ債還金額ノ支拂價スルモノ十分ニ償還スル實ヲ要スルモノトモ得ズ此缺點ヲ補充シ債還權利者ヲ以テ支拂ヲ得テシメ日支拂地ニ於テ即時ニ償還ヲ得タルト同一ノ狀況ニ在ラシメシカ爲メニ第四百九十一條第二項ノ規定ヲ設ケタリ本項ノ規定ニ依リハ債還ノ請求者受入者ノ住所地方支拂地ト異ナル場合ニハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受入者ノ住所地方支拂地ニ施テ提出シタ

一覽拂ノ爲替手形ヲ相場ニ依リテ第一項ニ定メタル金額ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受入者ノ住所地方最モ近キ地ニ宛テ提出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ其金額ヲ計算ス即チ本項ノ規定ニ依リテ第四百九十一條第一項ニ定メタル金額ハ變動ヲ生スルモノトモ例ニ第四百九十一條第一項ニ依リテ定メタル金額ヲ金千圓トシ面シテ支拂地ヨリ償還義務者ノ住所地方宛テタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ハ額面百圓ニ對シ百二圓ナリト假定ス此場合ニハ結局償還請求金額ハ金千二百圓即チ千圓ノ百分ノ百二ト爲ル之ニ反シテ相場カ額面以下ナル場合ニハ其計算ハ例ニ依リテ一覽拂ノ手形ニ付テ其相場九十八圓ナル場合ニハ償還請求金千圓ニ對シテハ第四百九十一條第一項ニ依リテ算出シタル實際償還金額ハ千二百圓ノ九十八分ノ四十ト爲ル即チ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタル價額ナラシムルコトナリ又ハ例ニ依リテ算出シタル實際償還金額ハ千二百圓ノ九十八分ノ四十ト爲ル即チ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタル價額ナラシムルコトナリ又ハ例ニ依リテ算出シタル實際償還金額ハ千二百圓ノ九十八分ノ四十ト爲ル即チ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタル價額ナラシムルコトナリ

第二項 裏書人ノ償還請求

所持人ニ對シテ償還ヲ爲シタル裏書人又ハ裏書人ニ對シテ償還ヲ爲シタル裏書人ハ勿論後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シテ償還ヲ請求ヲ爲スコトヲ得其請求ヲ爲スニ付テハ裏書人ハ償還ヲ爲サシメントスル者ニ對シ自己ヨリ通知ヲ受ケタル日ヨリ翌日ヲ以テ償還請求ヲ通知シタル日トシテ要ス(第四八八條參照裏書人カ受ケタル償還金額ハ第四百九十五條ヲ以テ之ヲ定メタリ其時止十八圓以下ハ組合ニハ償還請求金ノ半額ニ付マセハ第四百(一)百其支拂ヒタル金額及ビ支拂ヒ日以後ノ法定利息ハ抽換例ハ既裏書人ハ其持人ニ對シテ償還ヲ爲シタル日ヨリ第四百九十一條第二項ニ規定スル額ハ其支拂ヒタル金額ニシテ若シ又此裏書人ハ住所地方支拂地ヨリ其額ハ第四百九十一條第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額即チ支拂ヒ及ビ利息額ト爲ル此金額ニ對シテ支拂フ日ヨリ償還ヲ爲シタル金額ヨリ年六分ノ利子ヲ算算シタルモノハ即チ第四百九十二條第三項第一號ノ金額ナリ故ニ此島合區ハ學形金額ノ利子ニ對シテ更ニ利子ヲ附スルヲ結果生ズ(第四百九十二條第三項第二號)其支出掛金及費用等裏書人ハ償還ヲ請求スルニ付テハ償還請求ノ通知ヲ

發スルモノヲ要ス故ニ多少ノ抽換費用ハ償還セシムルコトヲ得タルヘカラス償還請求ヲ受ケタル前者ヨリ住所地方償還ヲ請求スル裏書人ハ住所地方同其カの場合ニ以テ住居(二)ノ金額ハ各算地ル毎分ヲ以テ足ル額ニ至ル君其住所地方異ナル場合ニ於テ右(一)ノ金額ハ償還ヲ請求スル裏書人ハ住所地方償還ノ請求ヲ受ケタル前者ノ住所地方宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ依リテ變動シタル爲替下付率第四百九十一條第二項ニ付テ說明シタル如ク第四九二條第三項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ニ對シテ支拂フ日ヨリ償還ヲ爲シタル金額ヨリ年六分ノ利子ヲ算算シタルモノハ即チ第四百九十二條第三項第一號ノ金額ナリ故ニ此島合區ハ學形金額ノ利子ニ對シテ更ニ利子ヲ附スルヲ結果生ズ(第四百九十二條第三項第二號)其支出掛金及費用等裏書人ハ償還ヲ請求スルニ付テハ償還請求ノ通知ヲ

### 第三項 償還ノ方法

償還ヲ爲スニハ爲替手形支拂拒絶證書及ビ償還計算書ヲ引換シ非ズル限リ對爲スコトヲ要セシ又償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受ケタル若シテ償還計算書ハ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ之ニ署名セシムルコトヲ得要スル繼續テ此等規定ハ償還ヲ爲ス者ヲシテ再ヒ二重ノ償還ヲ爲スノ虞ヲ免レシメシカ爲メナリ第四九五條)

第四項

爲替手形

手形法ハ第四百九十一條第四百九十二條ヲ以テ一般ノ償還請求ノ手形ノ規定ヲ爲シタルト雖モ尙ホ此規定ヲ以テ之ニ支拂ヲ爲サズ又ハ消滅ノ支拂地ノ指定又即時ニ償還ヲ受ケタルト全然同一ノ狀況ニ立タズ其ノ性質ニ異ナル得ズ是レ第四百九十三條第四百九十四條ノ規定ヲ以テ第四百九十一條第一項第四百九十二條第一項ノ金額ヲ受ケタルニ足ルヘキ金額ヲ以テ手形金額トシ償還義務者ヲ支拂人トシタル爲替手形ヲ振出スノ權利ヲ償還權利者ニ付與シ時及ヒ地ノ差異ヨリ生ズル償還ノ不公平ヲ補フ方法ヲ設ケタル所謂爲替手形ノ制度即チ是也

第一爲替手形ノ要件

爲替手形モ亦一ノ爲替手形ナルヲ以テ一般ノ爲替手形ノ要件スル條件ヲ備ヘタルヘカラス然レトモ元來償還請求ノ方法トシテ振出スモノナラズ以テ其要件ノ内容ニ付テハ尙ホ多少ノ制限アリ

(一) 爲替手形ノ金額 商法ハ爲替手形ノ金額ニ付テハ何等ノ規定ナシト雖モ元來此手形ハ償還請求ノ方法トシテ振出スモノナルヲ以テ其金額ハ自ラ

第四百九十一條及ヒ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ定マラルヘカラス即チ所持人カ振出ス爲替手形ノ金額ハ第四百九十二條第一項ノ規定ニ依リテ定マル唯茲ニ注意スヘキハ爲替手形ヲ振出ス場合ニハ所謂費用中ニハ手形ノ仲買手数料並ニ其振出ノ費用等ヲ包含ス而シテ此等合算ノ金額ハ所持人カ償還ヲ請求スル場合ニハ本手形ノ支拂地ヨリ償還ヲ請求受ケル者ノ住所地位ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ依リ又裏書人カ償還ヲ請求スル場合ニハ其住所地位ヨリ償還請求ヲ受ケル者ノ住所地位ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ依リ又變動生ズル例ハ第四百九十二條第二項ニ依リテ定ムル所金額ハ合計金千圓ナルニ爲替相場ハ百圓ニ付テ金九千八圓ナルニ於テ所持人ハ半圓ノ九千八百ノ百ニ相當スル金額即チ千二百圓九十八分ノ四ツヲ以テ爲替手形ノ金額ト爲サザルヘカラス故ニ此場合ニハ償還義務者ハ爲替手形滿期日當於該分千二百圓銀主沙支拂ルル四百沙之ニ過被シ沙爲

(四) 民爲替手形と振出地商此振出替所持人並振出相場合圖を本爲替手形より替手形額照日高相場合平の戻歸替手形支拂額を第四百九十二條第一項及  
第四百九十一條第二項及び第四百九十三條第三項依て決定し其金額は  
多年金額を得たるに至るまで償還義務者に結局其手形の満期日迄於て之を第四  
百九十二條第一項第四百九十二條第二項依て決定する金額を支拂ふ條件  
として提出せらる。一覽附替手形に附屬して又賣替人の預託金満期未だ組合  
の替手形と前養あり(第九三條)而して此手形を振出人が償還權利者とな  
りて當然大なりといふ與替手形と異なるといふ理由費田中二十年に入  
(三) 替展爲換手形孔支拂地近此支拂地の償還を請求する者の住所所在地によつて  
不同する要す第四九四條第三項通じて償還金償還請求を受けた者は住所地の  
地方公署又はその總督府令定する規定若しくは規則に基き其金額を自ら天  
(四) 民爲替手形と振出地商此振出替所持人並振出相場合圖を本爲替手形より

(五) 戻爲替手形ノ満期日、此手形ノ満期日ハ一覽ノ日タルコトヲ要ス。第四條第一項以此外ノ満期日ヲ定メタル戻爲替手形ハ戻爲替手形タルコトヲ得ス。是レ成ルヘク戻爲替手形ノ金額ヲ少カラシムルノ必要ヨリ出タズヤモシテシテ償還義務者ノ負擔ヲ輕カラシムル趣旨ナリ蓋シ手形ノ割引引合ハ一覽換ノ手形ヲ以テ最モ割安トスルモノナレハナリ。

支拂人ハ其手形ニ據テ支拂フ前二述ヘタル要件ヲ具備シテ振出シタル戻爲替手形ノ支拂人ハ其手形ノ裏面に受ケタルトキハ戻爲替手形ヲ支拂ハサルヘカラス蓋シ戻爲替手形ヲ支拂フハ即チ償還義務ノ實行ナレハナリ而シテ前者ハ償還義務ヲ負フコトハ手形法ノ認ミタル義務ナルヲ以テ即チ其手形ヲ支拂フヘキ手形法上ノ義務ヲ負フ事ナリト雖ハサルヘカラス若シ該支拂人ハ戻爲替手形ノ支拂人カ戻爲替手形ヲ支拂フニハ戻爲替手形ノ裏面記載書及印値ハ

通計算書ト引換ニ非<sub>レ</sub>ズ<sub>レ</sub>ハ支拂ヲ爲スモノトテ要スル額ハ三條第一項第四九  
 五條第一項並ニ戻爲替手形ノ支拂ナルモノハ又爲替手形ノ支拂ナルヲ以テ爲  
 替手形ノ支拂ニ關スルハ般規定ノ適用ヲ受クルノ外同時ニ其支拂ハ償還義務  
 ノ履行ナルヲ以テ一般ノ償還ノ實行ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルハ當然ナレ  
 ハナリ故ニ此等ノ理由ニ由リ戻爲替手形ノ支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替  
 手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得(第四八  
 三條第一項第四九五條第二項)然ルニ若シ戻爲替手形カ手形法ニ定マル要件  
 ノ具備セザルトキハ償還義務者タル新手形ノ支拂人ハ其手形ニ對シテ支拂ヲ  
 爲スルハ義務ヲ負ハス何トナレバ償還權利者ハ戻爲替手形ノ方法ニ依リ償還  
 ヲ請求スルニ必ス手形法ニ規定スル所ノ戻爲替手形ニ關スル要件ヲ具備シ  
 タル手形ヲ振出シテノミ請求シ得ルニ過キス隨テ若シ其要件ヲ具備セザル  
 キハ其手形ハ償還請求權行使ノ爲メ振出サレタル手形ト看ルコトヲ得(唯  
 償還ノ手形ト看タルニ過キスシテ本爲替手形ト手形上ノ義務ニ付テ何等ノ  
 關係ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得)此場合ニ其支拂大分支拂ヲ爲サザルコト

## 第二節 手形ノ參加

キハ新字形ノ所持人ハ本爲替字形ノ償還請求者即チ新字形ノ振出人マデハ連リテ新字形ニ基キタル償還請求權ヲ行使スルコトヲ得ヘシト雖モ本爲替字形依據シテ本爲替字形ノ償還義務者タル新字形ノ支拂人ノ對シ償還ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ戻爲替字形カ法定ノ要件ヲ具備ス場合ニ若シ其新字形カ支拂ハナクシキハ戻爲替字形ノ振出人ハ戻爲替字形ノ金額ヲ其振出し費用及ヒ爲替相場等ノ爲メニ如何ニ膨大ナルニ至ルベキ雖モ其金額ヲ以テ本爲替字形金額ヲ基本トシ戻爲替字形ノ支拂人タル本爲替字形ノ償還義務者ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得戻爲替字形ノ受取人以下ノ順持人ハ本爲替字形支拂拒絶證書及ヒ償還計算書ヲ有シ且本爲替字形ノ譲渡人側ニモトモ本爲替字形ニ依リテ明カナル場合ニ於テハ前ニ述ベタル戻爲替字形ノ振出人ト同様に償還請求權ヲ行使スルコトヲ得

第二節 字形ノ參加

字形ノ引受クルレバ即チ又償還期シタルニ支拂ヲ得タル場合ノ字形者信屋ノ

10

101



爲善手記

〜カラ〜ス（第

支體第一

之ヲ支拂

魚骨字形

參加引受ニ付テモ手形法ハ一部ノ引受又ハ制限附ノ引受ヲ認ムルヤ否ヤハ一  
ノ疑問ナリ若シ參加引受ハ引受ト同一性質ノモノナリト前提ヲ探ルトキハ  
直チニ引受ニ關スル規定ヲ援用シテ一部ノ參加引受ハ有效ニシテ其他ノ制限  
附引受ハ無効ナリト解セラルヘカラス然レドモ參加引受ヲ認メタル法律ノ趣  
旨ヨリ考フレバ普通ノ制限附ノ引受ハ勿論一部ノ參加引受モ到底無効ナリト  
解ハナラヘカラス蓋シ參加引受ノ目的ハ擔保ノ條件ヲ消滅セシムルニ在リテ  
成ルヘク手形ノ所持人カ本來ノ支拂人カ完全ナル引受ヲ爲シタルト同マ  
ハ狀況ニ在ラシムルモノナレバナリ然ルニ若シ一部ノ引受ヲ有效ナリトセハ  
其殘部ニ付テハ尙ホ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルノ必要アリ此殘部ヲ前者ニ  
請求スルニ付テハ拒絕證書ヲ作成セシメ又ハ通知ヲ發スル等ノ手續ヲ爲サズ

ルヘカラス然ラバ然ラバ擔保ノ條件ヲ消滅セシメンカ爲メニ設ケタル參加ノ  
制度ヤ何等ノ效用ヲモ充タナキト謂ハルハ其理ハ然ニヤ一部ノ參加引受消滅底  
無効ナリト解セラルヘカラス然レドモ唯支拂人尙ホ前記ノ趣旨ヨリ考フ  
其殘部ヲ悉數ニ參加引受ヲ爲ス場合ニテ擔保ノ事情ハ全額消滅セシメ消滅セ  
テ以テ此場合ニテ有效ナリト認メテハ擔保條件ヲ全然消滅セシメ得ル參加  
引受ハ有效ニシテ其他ノ參加引受ハ無効ナリト認メテハ手形法ノ趣旨ニ付テ  
ハニ參加引受人ハ所謂支拂人ニ非ズルヲ認メ參加引受ハ付テモ直チニ第  
百六十九條ノ規定ヲ援用セラルヘカラス然レドモ第五百六條ニ參加引受ノ效力  
ニ關シテ全然擔保請求權ヲ消滅セシムル趣旨ハ明カニ示シテ置カレテ居  
ルハ其趣旨ハ明カニ示シテ置カレテ居ルハ其趣旨ハ明カニ示シテ置カレテ居  
ルハ其趣旨ハ明カニ示シテ置カレテ居ルハ其趣旨ハ明カニ示シテ置カレテ居

第二項 所持人ノ選擇權

普通ノ引受ニ在リテ所持人ハ之ヲ拒ムル得ズ然レドモ參加引受ニ於テハ  
所持人ハ之ヲ拒ムル得ル其所以ニ若シ支拂人カ引受ヲ爲スニ當ルニ  
所持人ハ他ノ擔保義務者アルヲ以テ満足セズルモノモ引受又參加引受人カ



信用如何ニ拘ハラズシテ之ヲ承諾スルハカタクモ理由ハ其ノ由ナリ然  
レモ唯擔保支拂人ノ參加引受ニ至ラズモ拒絶シ得テ其意ハ擔保支拂  
人ノ擔保又ハ償還ノ事情アル場合ニ違フ打消ヲ得ルモトスルコトキハ全  
ク豫備支拂人ヲ設定シタル手形法ノ趣旨ヲ無視スルニ至レハナリ(第五〇一條)  
參加引受ナルモノハ多數發生スルコトアリ例ハ甲振出人ノ爲メニ參加引  
受ヲ爲シ乙ハ受取人ヲ爲メニ參加引受ヲ爲シ丙ハ第一ヲ裏書人ヲ爲メニ參加  
引受ヲ爲シカ如シ斯ル場合ハ所持人ハ自己ノ選擇ニ從ヒ何レカ一人ヲ  
參加引受ヲ爲シタルモノトシ得ヘシ(第五〇二條)手形ノ信用ヲ維持スル點  
ヲ觀レハ參加引受人ノ多キハ益手形ノ信用ヲ大クシテ之ヲ維持スル點  
ヨリ言ヘハ參加引受ヲ得ルハ引受拒絶證書ヲハ參加引受人ニ呈示シテ參  
加引受アリタル旨ヲ記載モシタルニカタクモ多數ハ參加引受人アル場合ハ悉  
ク之ヲ許容セザルニカタクモ所持人ハ其類ニ違ヘザルハ事實ノ信用ヲ大  
ナル一人ヲ選定スルノ輕便ナル點ヲ考ルナリ

### 第三項 參加引受ノ方式

參加引受ノ方式ハ參加引受ノ旨ヲ手形ニ記載シテ參加引受人ノ署名ナル  
在リ第五〇三條第一項又普通ノ引受ト異ナル點ハ普通ノ引受ニ在リテハ引受  
人ノ署名ノミノ引受ヲ認ムト雖モ參加引受ニ在リテハ參加引受人ノ單純ナル  
署名ノ引受ハ之ヲ認メス而シテ普通ニ參加引受ヲ爲スニハ何人ノ爲メニ參加  
スルヤヲ定メテ之ヲ爲スモノナリト雖モ時トシテ何人ノ爲メニ參加スルヤヲ  
定メシテ參加引受ヲ爲スモノアリ此場合ニ於テハ其參加引受ハ振出人ノ爲  
メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス蓋シ振出人ノ爲メニ爲タル參加引受ハ最モ  
多數ノ擔保義務ヲ免レシムルモノナリ第五〇三條第二項ハ此點  
所持人カ參加引受ヲ得タルトキハ引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載  
セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ  
課ス又參加引受人ハ其拒絶證書ヲ還滯ナク被參加人ニ交付スルコトヲ要ス(第  
五〇四條)蓋シ此手續ノ必要ナル被參加人ヲ引受參加引受アリタル旨ヲ通知スル



參加支拂ハ手形ノ償還請求ノ事情ノ生シタル場合ニ之ヲ打消シテ爲メニ第三者ノ爲メ支拂ヲ附フ故ニ參加ナルモノハ償還ノ事情カ發生シタル後ニ非ナレハ其作用ヲ爲ササルモノナリ隨テ手形ノ支拂人カ満期日ニ至リ支拂ヲ爲ササルトキニ於テ支拂拒絶證書ヲ作成セシタル後ニ非サレハ參加支拂ナルモノナシ又參加支拂ノ目的ハ償還ノ事情ヲ全ク打消シテ在ルヲ以テ此目的ヲ達セタル所ノ參加支拂ハ無効ナリト謂ハサルヘカラス故ニ普通ニ支拂ニ於テハ所持人ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得スト雖モ參加支拂ニ於テハ一部ノ參加支拂ノ爲メニ尙ホ償還事情ノ一部カ殘ルカ如キ場合ニ之ヲ拒絶スルコトヲ微ヘシ然レトモ支拂人カ既ニ一部ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ其殘餘ノ全部ヲ參加支拂ヲ爲ス場合ニハ結局償還ノ事情ハ全然消滅スヘキヲ以テ此場合ニ限リ一部ノ參加支拂ハ有效ナリトス

**第二項 參加支拂ニ關スル所持人ノ義務**

(一) 所持人ハ參加支拂ヲ受タル義務ヲ有ス第五〇九條參加引受ニ付テハ所持

人ハ豫備支拂人以外ノ者ノ參加ヲ拒ムコトヲ得シト雖モ參加支拂ニ付テハ何人ノ支拂ト雖モ所持人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ムトキハ豫備參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

(二) 所持人ハ參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ最も多數ノ者ノ義務ヲ免レシムヘキ參加支拂ヲ受クルコトヲ要ス(第五一〇條參加支拂ヲ爲ス者カ一人ニ止マラスシテ數人競合スルコトナリ此場合ニハ所持人ハ最も多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムヘキ效力ナル支拂ヲ受クルコトヲ要ス故ニ引受人ノ爲メニスル參加支拂ハ最も多數ノ者ノ債務ヲ免レシムルモノナルヲ以テ引受人ト他ノ者トノ間ニ參加支拂ヲ爲ス者アルトキハ先ツ引受人ノ爲メニスル參加支拂ヲ受ケタルヘカラス又第一ノ裏書人ト其後ノ裏書人ノ爲メニスル參加支拂人アルトキハ第一ノ裏書人ノ爲メニスル參加支拂ヲ受ケタルヘカラス而シテ參加支拂ヲ爲ス者ハ參加人指定書ナル其書ハ第五百十條ノ規定ニ依リ其支拂ハ該持人ノ爲メニ爲シ該持人ト看做ス然レトモ參加支拂人カ豫備支拂人ナル時又ハ參加引受人ト指定書等ノ指カ參加支拂ヲ爲スニ當リテハ

第三項 參加支拂、效力

### 第三節 拒絕證書

夕水 海軍圖書 一九二

拒絶證書ニ記載スル事項 第五百十五條ニ之ヲ規定ス即チ此第一號乃至第七號  
事項ヲ記載スル事項ニ要スル事項ニ記載スル事項ニ記載スル事項ニ記載スル事項  
第二 公替手形 其原本及之補綴ニ記載スル事項ニ記載スル事項ニ記載スル事項  
此事項ニ如何ナル手形ニ關シテ一定ノ請求ヲ爲セシメ知ルニ付キ必要ニ  
其記載ノ方法ニ必スシモ原文ノ權ニ記載スルニ必要ナシ原本手形如何ナル  
手形ナルキヲ明カニスルコト得ルヲ以テ足ル又應寫スル事項ハ原本ニ記  
載スル文字ヲ悉ク應寫スルニ必要ナシ手形上ノ權利ニ關係アル引受支拂擔當  
保證擔當支拂又ハ原本ノ送付先等ニ關スル事項ハ悉ク之ヲ應寫セザルヘカラ  
スト雖モ手形上ノ權利ニ關係ナキ事項例ヘハ爲替手形ノ番號又ハ其他ノ覺書  
等ハ之ヲ應寫スルノ必要ナシ  
第二 拒絶者及之被拒絶者ノ氏名又ハ商號ニ記載スル事項  
拒絶者及之請求ニ應セザル者ヲ南ヒ被拒絶者トテ請求ヲ爲シテ拒絶タル者  
ヲ南ヒ此等ヲ若ク氏名又ハ商號ハ之ヲ拒絶證書ニ記載セザルヘカラス  
第三 拒絶者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及之拒絶者其請求ニ應セザリシ

ト又ハ拒絶者ニ而會スルコト能ハズリシ理由  
請求ノ趣旨ハ引受ノ請求或ハ引受人破産ノ場合ニ於テ所擔保ノ請求原本返還  
ノ請求又ハ原本返還ノ請求アルコトアルニ此等其請求ノ種類ニ從テアル  
權利關係異ナルヲ以テ其如何ナル請求ナルキヲ明カニスルヲ必要トス又拒絶  
者其請求ニ關セザリシコトモ之ヲ記載スルコトヲ要ス此他一定ノ請求カ豫期  
シタル結果ヲ得タルコトハ單ニ請求ヲ受ケタル者カ之ニ應セザル場合ノ外請  
求者ニ而會スルコト能ハサル場合ニ起リ得トテ故ニ拒絶者ニ而會スルコト  
能ハサル爲メニ請求ノ目的ヲ明カニシテ拒絶タルキ其事由ヲ記載セザル  
ヘカラス  
第四 前記ノ請求ヲ爲シ又之ヲ爲セト能ハサリシ地及之年月日  
一定ノ請求ヲ爲シ付ナハ自ラ地ニ限リアリ例ヘハ支拂ニ關スル請求ハ支拂  
地ニ於テ之ヲ爲サザルヘカラ然レバ如シ故ニ請求ヲ爲シ又之ヲ爲セト能  
ハサリシ地ヲ明示スルノ必要ナシ又請求ヲ爲シ自ラ一定ノ期限アリ例ヘ  
ハ支拂ノ請求ハ償還請求權ノ權限ヲ爲メニ公稱期日又ハ其後ノ二日以内





條

海

五

4

如

和



後管財人ハ訴訟ヲ續行スルコトヲ要ス蓋ハ供託額ハ其金額ハ管財人應納スル  
場合ニ於テ破産財團トシテ破産債權者ニ配當スルモノナリトシテ之ヲ後者所  
場合ニ於テ別除權ニ關スル訴訟ヲ破産者ヨリ又ハ破産者對テ受繼スル  
コトヲ要ス蓋ハ協賛契約ノ效果トシテ別除權ノ目的物若クハ其實得金ニ關シ  
別處分權ハ破産者ニ歸屬シ得テ以テ之ヲ(3)別除權ニ存在ニ付得テ之ヲ  
又ハ別除權ニ存在ヲ是認スルヲ確定判決ヲ以テ之ヲ別除權者ハ其權利ヲ  
民法就賣法及ヒ民事訴訟法ニ從ヒテ行使スルコトヲ得而シテ別除權者ハ民事  
訴訟法ノ規定ニ從ヒテ就賣ヲ爲スルハ管財人ニ對シ強制執行ノ債權名義ヲ有  
スルコトヲ要ス民事訴訟法第五五六條第五五九條獨逸破産法第四二條何處  
レハ管財人ハ別除權ノ目的物ヲ處分スル權限ヲ有スルハ其權限ナレバ故ナ  
別除權者ハ管財人ニ對スル起訴若クハ督促手續續行從又ハ破産宣告前別除  
權ノ原因タル權利ニ付テ罷屬セシ訴訟ヲ管財人ニ對シ受繼民事訴訟法第一七  
九條ハ新債務名義ヲ取得セザルハ其別除權者ハ破産宣告前ニ於テ  
既ニ破産者ニ對シ強制執行上ノ債務名義ヲ有セタル場合ニ於テ別除權續



民訴法第六編 強制執行 強制執行ノ要件 執行實施ノ要件

ルヘキ所ニ非サル事項ヲ執行文中ニ附加シタルモノハ例ヘシ債權者カ執行ノ  
 條件ノ成就ヲ證明セタルニ因リ裁判長カ執行力アル正本付與ノ命令ヲ下  
 シタルコトノ如キハ判決其他ノ債務名義ノ外向キ其執行文ヲ送達シヘシ並ニ  
 其執行文付與ノ基本ト爲タル公ノ證明書ノ原本並ニ送達シタルモノカ決シテ(第  
 五二八條第二項第三項)然レトモ荷右ノ送達ノ事實アルニ於テ(法定ノ條件  
 フ履行シタルモノト開フヘク其送達ノ如何カ目的ニ出テタルト例ヘシ)單ニ  
 判決ヲ確定セシメシカ爲メ換言スレハ上訴期間ノ進行ヲ始メシメシカ爲メ  
 判決ノ送達アリタルカ如キ其何人ヨリ之ヲ爲シタルモノト問フコトナシ(例ヘシ)  
 裁判所カ職權ヲ以テ判決ヲ送達シタルト又判決カ當事者ノ職權ニ一方ノ申請  
 ニ因リ送達セラレタルト問ハサルカ如キ然レトモ其送達ハ有效ナルコトヲ  
 要シ隨テ執行着手ノ後ニ爲シタル送達ハ法定ノ要件ヲ充スニ足ラサルヲ以テ  
 其以前爲シタル執行行為ハ全然效力ヲ生ズ(受領狀附屬ノ證明書ヲ提出シテ  
 (乙)其他強制執行ノ正本ニ表示アル日時ノ到來セタル以前ニ在リタル之ヲ開  
 始スルコトヲ得(第五二九條第一項)又債權者カ其義務ニ屬スル保證ヲ立テ

ルコトヲ公ノ證明書ヲ以テ證明シ且既ニ送達シ又ハ同時ニ之ヲ送達シタルコ  
 トヲ證明セタルトキハ之ヲ開始スルコトヲ得ス(第五二九條第二項)隨テ其以前  
 ニ爲シタル執行行為ハ此場合ニ於テモ債務者並ニ第三者ニ對シ全然效力ヲ有  
 セス(縱令其間ニ日時カ到來シ又ハ證明若クハ送達ヲ追完シタルトモ)雖モ亦  
 然リ(第五二九條第二項)提出シタル證明書ニ其詳細ニ附シテ之ヲ提出スルモノ  
 (四)現役ノ軍人軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳カ通知ヲ受ケタ  
 ルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得(第五三〇條第一項)而シテ此條件ノ存否ハ執  
 行機關ニ於テ之ヲ審査スルコトヲ要シ隨テ其通知ヲ爲シタル債權者ハ之カ爲  
 マ該官廳ニ通知ノ受取證ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五三〇條第二項)正副  
 第四執行機關カ債權者ノ申出ニ因リ一タヒ手續ヲ開始シタル後ニ於テハ其  
 執行行為カ執行裁判所ノ爲ス所タルト又執達吏ノ爲ス所タルトノ間ハ不更ニ  
 債權者ノ申立ナキニ於テハ之ヲ停止制限スルコトヲ爲ス原則ト爲スト雖モ左  
 ノ場合ニ於テハ債務者又ハ第三者カ書面ヲ提出シタルニ基キ執行機關ハ其行  
 動ヲ停止若クハ制限スルコトヲ要ス(注意)停止トハ執行ノ全部ヲ止ムルヲ謂ヒ



制限下ハ其一部分ヲ止ムルモノヲ謂フ(乙)強制執行ノ命令ヲ廢棄スルノ裁判  
(甲)第一審又ハ上級審ノ受訴裁判所ニ於テ強制執行ノ命令ヲ廢棄スルノ裁判  
アリタルトキ即チ故障控訴上告再審ノ結果トシテ言渡アリタル判決力執行セ  
ラルベキ判決又ハ其假執行ノ宣言ヲ廢棄變更セラルベキ第五〇條又ハ右ノ判  
決力強制執行ノ許スベカラサルモノタルコトヲ宣言シタルカ(第五四五條第五  
四六條第五四九條又ハ終局的ニ執行ノ停止ヲ命ジタルトキ(第五四八條第五四  
九條第四項又ハ第一審若クハ抗告審ノ決定力強制執行ヲ全額許スベカラサル  
コトヲ宣言シタルカ(第五二二條第五五八條若クハ一部許スベカラサルコトヲ  
宣言シタルトキ(第五四四條)是ナリ執行機關ハ此ノ如キ内容有キル執行以得  
ベキ裁判ノ正本ノ提出アリタルトキハ管ニ其行動ヲ停止スルコトヲ要スルノ  
ミナラス(第五五〇條第一號)尙且其既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スコトヲ要ス  
(第五五一條)隨テ執行機關ニ此裁判力執行ヲ得ヘキモノタルヤ否ヤヲ審査ス  
ルコトヲ要シ之カ爲メ必要ナル場合ニ於テハ申請人ハ其必要ナル證明ヲ  
徹セサルベカラス(例ヘバ判決確定ノ證明ヲ如キ)而シテ此裁判ノ正本ノ提出カ

何人ノ手ニ出タルヤハ之ヲ問フコトナシ且雖モ此事項ハ裁判所ノ職權ヲ以  
テ調査スベキモノニ屬セサルヲ以テ停止ヲ求メシトスル者ハ之ヲ提出セサル  
ベカラサルヤ勿論ナリ(第五五二條)強制執行ノ命令ヲ受訴裁判所ノ裁判アリタルトキ(第四六〇  
(乙)強制執行ノ命令ヲ一時停止スル受訴裁判所ノ裁判アリタルトキ(第四六〇  
條第五〇〇條第五一二條第五二二條第五四四條第五四七條第五四九條  
第四項又ハ急迫ナル場合ニ於テ執行裁判所カ右ノ裁判ヲ爲シタルトキ例ヘバ  
執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命スル決定第五五〇條第二號)既ニ生シ  
タル執行處分ノ取消ヲ命スル決定ノ如シ(第五五〇條第五一二條第五四七條第  
五四九條第四項第五五一條)此場合ニ於テモ亦其裁判ノ正本ヲ提出スルコトヲ  
要スト雖モ此種ノ裁判ハ命令又ハ決定ニシテ隨テ之ニ對シテ不服ヲ申立タル  
コトヲ得タル裁判カ(第五五〇〇條第三項第五五二條又ハ抗告ヲ以テハ不服  
ヲ申立タルコトヲ得ヘキ裁判ニシテ共ニ即時ニ執行ヲ得ヘキ判決ナルヲ以  
テ(第五五九條第一號)之カ執行力ヲ存在シ證明ヲ必要トセシメ而シテ此一時ノ停  
止ハ更ニ續行ヲ命スル裁判所ノ裁判アルカ又ハ執行裁判所ノ停止ノ裁判ヲ追

認スル受託裁判所ノ裁判ヲ提出シテ爲メ決定シタル期間ハ其結果ヲ得  
スルヲ經過スルニ至ルマデ存続ス第五四七條第四項第五四九條第四項又若シ  
其停止力條件附ニ命セラレタルトキ即チ債權者カ履行ノ爲メニ保證ヲ立タズ  
ルコトノ公ノ證明書ヲ執行機關ニ提出シ且相手方ニ其原本ヲ送達シタルコト  
ヲ證明スルニ至ルマデ存続ス第五二九條第二項又ハ執行開始ノ後ニ於テ其  
(丙) 債務者カ執行開始ノ前ヨリ第五〇五條第二項又ハ執行開始ノ後ニ於テ其  
執行ヲ避クルコトノ條件トシテ裁判所ヨリ定メラレタルモノヲ執行開始ノ後  
ニ履行シタルトキ詳ニ言ヘハ債務者カ保證ヲ立テ又ハ訴訟物ヲ供託シタル場  
合是ナリ第五〇〇條第五一二條第五二二條第五四七條乃至第五四九條第五五  
〇條第三號此場合ニ於テハ公ノ證明書ヲ以テ其條件ノ履行ヲ證明シタルトキ  
ハ執行機關ハ暫ニ其行爲ヲ停止スヘキノミナラス尙ホ其既ニ爲シタル執行處  
分ヲ取消スヘキモノトス第五五〇條第三號第五五一條  
(丁) 執行スヘキ判決ノ成立後ニ於テ債權者カ其辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶  
豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書ヲ提出シタルトキ第五五〇條第四號此場

合ニ於テハ執行機關ハ其行動ヲ停止スルコトヲ要スト雖モ其既ニ爲シタル處  
分ヲ取消スコトナシ第五五一條然レトモ又債權者カ其辨濟又ハ猶豫ノ事實ヲ  
爭ヒタルトキハ執行ハ之ヲ續行スヘク債務者ハ之ニ對シテ異議ヲ訴フ提起ス  
ヘキノミナラス其行爲ハ其執行スヘキ若クハ假ニ執行スヘキモノト  
第五〇〇條執行手續ノ開始並ニ續行ハ其執行スヘキ若クハ假ニ執行スヘキモノト  
セラレタル終局判決ニ關スル訴訟ノ中断若クハ中止ニ依リ之ヲ許サス  
ルニ至ルコトナシト雖モ左ノ事由ノ存スル場合ニ於テハ之ヲ許サス  
(甲) 執行行爲ヲ求メタル債權者ノ死亡ニ因リテ右ノ效力ヲ生ス何トナレハ執  
行機關ハ唯其執行力アル正本ニ表示セラルル者ノ爲メニハ執行ヲ爲スヘキ  
ノナルカ故ニ(第五二八條其債權者ノ死亡ヲ知リタルトキハ其通知カ何人ノ手  
ニ出タルヲ問ハズ執行ヲ開始又ハ續行スルコトヲ得又其死亡ノ後之ヲ知ラ  
サルカ爲メニ爲シタル執行行爲ハ其效力ヲ有ス隨テ取消サルヘキノミナ  
ラズ又其死亡前ノ執行行爲ハ一時存立スルモ更ニ之ヲ續行スルコトヲ得ハカ  
シ債權者ノ相続人カ其氏名ヲ記載シタル債務名義ノ執行力アル正本ヲ得テ之ヲ

相手方を差押しタル事は、限られた強制執行開始若し執行終了の事由を得たる  
モノトス(第五二八條第二項)然レモ又死亡者ノ任シタル訴訟代理人ヲ委任す  
ノ死亡ニ因リ當然其代理權ヲ失フモノナキヲ以テ(第六九條更ニ相續人ノ名  
於此ノ如ク執行力アル正本ヲ付與シ求ムルコト得ルモノトス(第六九條更ニ  
(乙)執行ヲ受タヘキ者ノ死亡シタル場合ニ於テハ其訴訟代理人ノ平  
(二)執行ヲ受タヘキ者ノ死亡シタル場合ニ於テハ其訴訟代理人ノ平  
行ヲ開始スルコトヲ得ヘカラス(第五二八條第一項)故ニ債權者ハ其相續人  
ノ名義ヲ存タル執行力アル正本ヲ付與シ受タルコトヲ要ス(第六九條更ニ  
(二)之ニ反シテ既ニ開始セラレタル手續ヲ續行シ例外シテ之ヲ受タヘキ者  
ノ死亡ニ因リテ妨ガラルモノトナク其遺產ニ對シテ之ヲ續行スヘク更ニ其相  
續人ノ氏名ノ表示アル執行力アル正本ヲ受タルコトヲ必要トセス又其遺產カ  
既ニ相續セラレタルト否トヲ問フコトナシ(第五五二條然レモ執行行為ヲ付  
與債務者ヲ知ルコトヲ要スル行為ハ其相續人又其遺產ノ管理人ニ對シテ之ヲ  
爲スベク其之ヲ缺ク場合茲ニ相續人ノ所在明カニナラズ相場會社於テハ執行義

判所ハ債務者ヲ申立ニ因リテ時以特別代理人ヲ選定之ヲ得テ當該執行行為爲  
關スル代理入味ラシムヘシトス(第五五二條第二項)第五六六條第五九二  
條第五九八條第六三九條等參照)

### 第三章 強制執行ニ對スル保護

#### 第一節 一般

強制執行ノ手續ニ於テ當事者雙方ハ其保護權利ヲ法律上債權者同爲  
メニ其保護手續ヲ講スル事共ニ其又債務者ノ爲メニ強制執行ニ對シテ保護ノ  
方法ヲ認メザルモノナリ而シテ此債務者保護ノ手段タルヤ當ニ未確定ノ請求  
ヲ執行スル場合ニ於テ之ノ存在ニ對シテハ被告ノ主張ノモチラス又裁判所ハ請求  
關シ審理ヲ悉ク其裁判力相當ノ審級ヲ經由タル請求ニ付テハ亦之ヲ認許ス  
ルノ必要ヲ見ル蓋シ債權者ノ請求力右ノ如ク強制執行開始後被告タル場合ニ於  
テハ例ヘ以債務者ヲ其後任意ニ其債務ヲ履行シタル事若シテ債權者力其履行  
ヲ猶豫ヲ許シタル所如キ事情ニ變更見ルモノナラズ其其他債務名義ノ成



第三號及第四號ヲ定ムル簡單ナル問題ヲ審查スルノ權限有之ルニ過キ  
即チ執行ノ原因カ消滅シタル場合ニ關シテハ第四號ノ場合ニ限リ之ヲ審查  
スルコトヲ得ル又執行ヲ停止スル原因以テ到來シタル場合ニ付テハ第三號ノ  
場合ニ限リ之ヲ審查スル權有之而シテ此ノ如キ權限ヲ有スル場合ニ在  
リテハ其審查ノ效力ハ法律ニ依リ限定セラレ其終局的ニ處分スルコトハ權限  
場合同チ管轄執行ヲ停止スルコトヲ要スルメナラズ例ヘテ該賣ヲ停止スル  
如キ向ホ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スルコト(例ヘテ差押ヲ解除スル如  
キ)ヲ得ルハ事情ニ極メテ簡單ナル第五百五十條第三號前段ノ同條第  
四號ノ場合ニ在リタルハ既ニ爲シタル執行處分ハ一時之保護權限ニ依リ  
トシ故ニ此場合ニ於テ既ニ爲シタル執行處分ヲ終局的ニ停止スルコトヲ得  
ト欲キハ更ニ裁判所ノ裁判ヲ經テ第五百五十條前段ノ規定ニ依リ執行力  
ヲ正本ヲ提出スルコトヲ要スル以上第五百五十一條ノ規定ニ關シテ  
次ニ債務者カ執行手續ニ於テ債權者ニ對シ裁判所ニ保護ヲ求ムルハ應權ニ付  
テ言フハ(第一債務者ハ執行力ヲ正本ニ付與シ保護ヲ求ムルハ應權ニ付

關シ之ヲ付與スルノ前提要件ノ存在セザルコトヲ主張セシメ異議ヲ申立テ之ヲ  
立證スルコトニ依リ當ニ既ニ開始セラレタル執行手續ヲ妨ケルニ止マラス  
テ向ホ其手續ノ開始ヲ妨ケントスルモノトアルハ第五百五十二條(第二)執行手續ノ  
開始アリタル後ニ於テ債務者カ自己ニ對スル執行實施ノ方法ニ對シ殊ニ執  
吏ノ遵守スル手續ニ關シ異議ヲ申立タルコトヲ得ル第五百四條(第二)債務  
者ハ判決其他ノ債務名義ニ因リ確定シタル請求自體ニ對シ異議ヲ唱ル者ト  
ヲ得ヘシ(第五四五條)ハ此ノ如キ執行實施ノ方法ニ對シ殊ニ執吏ノ遵守  
債務者ノ提起スル此等ノ異議ハ總テ執行ヲ全然廢除セシメ其目的ハ其  
ルカ又ハ其一部ヲ排除セシメト目的トスルモノニ受テ其異議ハ其理由  
アリト認ミラルル場合ニ於テハ此ノ如キ效果ヲ生シ其異議ハ其理由  
異議ハ總テ執行行為ヲ繼續スルコトニ付テ何等直接ニ障礙ヲ生サルコトナ  
ク原則トシ(第五二條第二項第五四條第五五條)唯此等ノ異議ニ付テ裁判  
所ハ權アリ裁判所ニ於テ裁判前假令處分ヲ命令スルコトヲ得テ急迫ナル事情  
アリト認ムル場合ニ於テハ執行裁判所ニ減額申立ニ因リ或ハ職權限以テ債

著者ノ利益ヲ爲シ裁判前ニ於テ假令處分ヲ爲ス申立ヲ得ル止ルヲ然レトシ  
法律ハ債務者カ此ヲ如キ異議ヲ申立タルコトヲ爲サスシテ既ニ存在スル債  
務名義ニ基テ強制執行ノ適法ノモトタルコトヲ認メ唯強制執行ノ前提要  
件タル債務名義其モノヲ排除スルコトヲ目的トスル次ノ場合ニ付テモ亦其利  
益ノ爲メニ假令處分ヲ爲スコトヲ許ス(第一)不服申立期間ノ經過シタル後ニ原  
狀回復ノ申立アルカ又ハ再審ノ申立アリタル場合ニ於テ受訴裁判所カ申立ニ  
因リ假令處分ヲ命スル場合即チ之ニ屬ス蓋シ此場合ニ於テハ債務者ハ判決ヲ  
確定シ之ニ執行力ノ存スルコトヲ爭フニ非スシテ唯之カ取消ヲ求メ以テ執行  
ヲ許サザラシメンコトヲ目的トスルモノナレバナリ(第五〇〇條)(第二)債務者カ  
假令執行シ得ヘキモノト宣言セラレタル判決ニ對シ故障又ハ正訴ヲ提起シタ  
ル場合亦右ニ同シ(第五一二條)

第二節 債務名義及ヒ之カ執行文ヲ排除スルノ手段  
第一款 債務名義ニ對スル債務者ノ異議

第一一〇條 (第五四四條) 債權人ハ其債權ニ對シテ債務者ノ異議ニ對シテ  
債務者ハ既ニ開始セラレタル強制執行手續ニ基本タル債務名義又ハ將ニ開始  
セラルヘキ執行手續ノ基本タル債務名義其モノヲ排除スルニ因リ強制執行ヲ  
避タルコトヲ得ルノ最大ノ利益ヲ有ス而シテ此利益ヲ得ルノ手段トシテハ第  
一一〇條ニ成立スル執行シ得ヘキ裁判ヲ同一請求ニ付テノ裁判手續ニ於テ取消  
スコトヲ求ムルヲ目的トスル總テノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ假令執行シ  
得ヘキモノト宣言セラレタル下級審ノ判決ヲ廢棄スル上級審ノ判決ヲ求ムル  
申立ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ又證書訴訟ニ於テ先ツ言渡サレタル留保ノ判決  
ヲ廢棄スル其後ノ判決ヲ求ムルノ申立ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ又假令執行シ  
得ヘキ關席判決若テハ執行命令ヲ廢棄スル對席判決ヲ求ムルノ申立ヲ爲スコ  
トヲ得ルカ如キ又假令押假處分ノ取消ヲ求ムルコトノ申立ヲ爲スコトヲ得ル  
カ如キ是カリ(第七四四條第七四五條第七五六條)而シテ此等ノ裁判アリタル  
キハ之カ正本ヲ提出スルニ因リ執行機關ヲ以テ其執行行為ヲ取消サシムルコ  
トヲ得ヘキ第二ノ手段トシテハ債務名義ニ對立シ舊既ニ確定シタル判決ニ對



少再審ノ訴ヲ提起スルニ依リ新訴ヲ訴手續ニ屬スル見解ニ至ルヨリハ此判決地亦其效果ニ於テ同執行ノ對價債務者其債權計額ニ足ラ第五〇條第一號ニ就テ又第三ノ手段則シテ同強制執行關シテ上訴裁置再審ノ訴ニ於ケルカ如ク既ニ存在スル債權名義附付其訴憑上ス欠缺ヲ主張シ又ハ實體法上ニ於テ不當ナル理由ヲ主張シテモ同異議其成立ハ之ヲ爭ハズシテ唯一之正當ニ成立シタル債務名義立其後ニ於テ當事者間事情適合ハシテ執行ヲ許スニ適セタルニ至リタルハ同主張其特殊ノ訴ヲ認所請請求關スル債務者ノ異議ノ訴ヲ形式ヲ以テ新訴訴手續開辦場爲スモ即チ是ヲ求ムル目録ハ同異議ノ申立ニ從ハズモ同異議ノ請求ニ對スル債務者其異議訴ニ於テ同既ニ判決因難確定シタル請求自體ニ對スル異議ヲ主張スルニ要シ而シテ此異議ノ理由ハ同異議ノ規定ニ從ヒ異議主主張スル要スル口頭辯論ヲ終結後發生シタル事ニ限リ之開辦場スルヲ許シ(第五四五條第二項)此訴ニ於テハ素ト請求ニ關係アルカ爲メ

### 第八項 自主權

市町村ハ自治團體トシテ市町村共同事務ヲ處理シ其住民ニ對シ命令權ヲ行使スルニ由リ必要上市町村ノ法則規定等ヲ定ム得ラレタルヘカラス其權ヲ稱シテ市町村ノ自主權ト稱フ換言スレハ自主權トハ一方ノ行爲ニ依リ他ヲ羈束スル法規ヲ制定スル權ナリ而シテ市町村ノ法則規定ハ通常條例及ヒ規則ノ形ヲ以テ發布セラルルモノニシテ條例ト規則トハ第一實質第二許可手續ニ於テ異ナルモノナリ同異議ノ訴ハ條例トハ市町村ノ組織市町村住民ノ關係即チ市町村ノ組織内ノ權利義務ニ關スル法規ニシテ規則トハ主トシテ營造物ノ組織及ヒ其使用方法ヲ規定シタルモノナリ第二許可手續ニ於テ異ナルハ我國ニテ條例ヲ發スルトキハ之ニ付キ内務大臣ノ許可ヲ要スルモ規則ニ付キハ内務大臣ノ許可ヲ得ルヲ要セス府縣又ハ郡縣事會ノ許可ヲ得ルニ止マルモノナリ蓋シハ住民ノ權利義務ニ關スル

他ハ住民ノ權利義務ニ關スルコト殆トナクハナリ條例ト規則トノ間ニハ效力上ノ差異ナシト雖モ條例及ビ規則ハ法律命令トノ間ニハ效力上ノ差異在スルモノナリ即チ條例及ビ規則ハ法律命令ニ牴觸スルヲ得サルモノナリ今條例規則制定ノ手續ヲ略スレバ

(イ) 發案 市參事會町村長ニ於テ之ヲ爲ス

(ロ) 議決 市町村會之ヲ議決ス市町村ト同一ナル下級團體ト雖モ沖繩縣ノ區會及ヒ北海道ノ區會及ヒ町村會ハ條例及ビ規則ヲ議決スルノ權限ヲ有セサルモノナリ

(ハ) 許可 條例ハ內務大臣ノ許可ニ依リテ制定マリ規則ハ府縣參事會及ヒ郡參事會ノ許可ニ依リテ定ムルモノナリ

終ニ注意スヘキハ市町村條例及ビ規則ハ其ニ市町村團體ノ意思ナルニ由リ此等ハ內務大臣ノ許可ヲ經ルモ省令ト爲ラズ府縣ノ機關ノ許可ヲ經ルモ府縣令ト爲ラサルナリ唯ハ例外ハ區議會區總會ヲ設クルトキ府縣參事會又ハ郡參事會ニテ條例ヲ議決スルナリ此場合ニ於テハ條例ヲ議スルモノハ市町村ノ

機關ニ非スシテ府縣郡ノ機關ナルモ府縣參事會及ヒ郡參事會ハ市町村ノ機關ニ代ヘテ之ヲ議決スルモノナルカ故ニ其條例ハ市町村ノ條例ニシテ即チ市町村團體ノ意思ヲ表示シタルモノナリ又市町村條例及ビ規則ハ團體ノ意思ナルニ由リ國家消滅スレハ其法律命令ハ原則上效力ヲ失フト等シク市町村團體廢滅スルトキハ其條例規則共ニ效力ヲ失フヘキモノナリ此點ニ於テ或省廢セラ

ルルモ其省ノ發シタル命令ハ直チニ效力ヲ失ハサルト其關係ヲ異ニスルモノナリ

### 第九項 市町村ノ財政

#### 第一 支出

支出ニ必要ノ支出ト然ラサルモノトアリ必要ノ支出トハ法律命令上市町村ノ義務ニ屬スル所ノ支出ニシテ法律命令上市町村ノ支出セサルハカラサル所ノモノナリ現行市町村制ニ依レハ此必要ノ支出中ニ從來法律及ヒ總テノ命令ニ依リテ負擔スルモノヲ包含スルモ將來市町村ニ對シ此ノ如キ負擔ヲ爲サシ

シトスルトキハ法律ニ非ナレハ必ス勅令ヲ以テスヘキモノナリ此必要ノ支出  
ノ他ノ支出ト異ナル點ハ監督者之ヲ強制的ニ市町村ヨリ支出セシムルコトヲ  
得ルニ在リヲ若シ市町村カ此等ノ支出ヲ豫算ニ載セス又ハ臨時ニ支出スルコ  
トヲ實行セサルトキハ監督官廳ハ理由ヲ示シテ之ヲ豫算ニ加ヘ又ハ臨時支出  
セシムルコトヲ得之ヲ稱シテ強制豫算ト謂フ

## 第二 收入

(イ) 上級團體ノ補助 補助ノ方法ニ二種アリ一ハ其費用ニ對シテ比例のニ交  
付セラルルモノ即チ歩合ニ依リテ交付セラルルモノニシテ他ハ下渡金トシテ  
一定ノ比例ニ依ラス或金額ヲ下付セラルルモノナリ

(甲) (ロ) 自己ノ收入

公法上ノ收入 公法上ノ收入ノ私法上ノ收入ト異ナルハ公法上ノ收入ヲ  
納メタル者ニ對シテ國稅滯納處分法ニ依リテ之ヲ強制スルコトヲ得又公法上ノ收  
入ノ賦課徵收ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモ  
私法上ノ收入ニ關シテハ此ノ如キ法律上ノ效果存セサルニ在リ

(A) 使用料加入金 使用料ハ營造物及ヒ共用財産ノ使用ニ對シテ之ヲ徵收スル  
モノニシテ加入金ハ新ニ營造物又ハ共用財産ヲ使用セントスル者ヨリ之ヲ徵  
收スルモノナリ

(B) 手数料 特別ニ利益ヲ受クル一箇人カ行政廳ノ行為ニ對シテ拂フ所ノ報  
酬ナリ

(C) 過料及ヒ過怠金 督促手数料ハ前者ノ例ニシテ後者ハ吏員ヨリ徵收スル  
金錢上ノ制裁ナリ而シテ共ニ命令ノ執行ヲ目的トシテ徵收スル所ノモノナリ

(D) 市町村稅 使用料手数料ト異ナリ納稅者ノ利益及ヒ報酬ニ係ラズ關係ナ  
收入ナリ而シテ之ヲ徵收スルハ市町村ノ費用ニ充ツルヲ目的トスルモノニシ  
テ其徵收ハ負擔力ノ多少ニ從フヲ原則トスルモノナリ市町村稅ヲ使用スル點  
ヨリ觀レハ二種アリ一ハ目的稅他ハ一般稅ナリ目的稅ハ特別ノ事業ノ費  
用ニ充ツルカ爲メ特ニ徵收スルモノニシテ例ハ市町村ノ一擧取ハ數多ク人  
カ專ラ使用スル營造物ノ費用ニ充ツルカ爲メ其使用者ヨリ特ニ徵收スル稅  
ノ如シ然レトモ是レ特別ノ場合ニシテ普通市町村稅ハ其使用ノ目的ニ依リテ

一般ノ費用ニ充ツルモノナリ是レ即チ一般稅收ヲ總テ市町村稅目市町村稅ノ他  
ノ收入ヲ以テ充ツルモノト能ハサル場合ニ始メテ徵收スルモノニシテ其徵收  
ニ方法アリ一ハ國稅府縣稅ノ附加稅トシテ屬課スルモノニシテ他ハ特別稅ト  
シテ屬課スルモノナリ而シテ市町村稅ハ直接稅ニ附加スルモノト爲ス直接  
稅ニ附加スルモノ一定ノ歩合ニ連スルモノハ許可ヲ要セザルモノニシテ其步  
以上ニ附加スルモノ又ハ間接稅ノ附加稅ヲ徵收スルモノ若シテ特別稅ヲ徵收  
セントスルモノトキ始メテ內務大臣ノ許可ヲ要スルモノナリ市町村稅納稅  
義務者ハ(一)住民(二)三箇月以上ノ滞在者(三)土地家屋ヲ有シ或ハ定額營業ヲ爲ス  
者即チ是ニシテ課稅ノ目的物ハ土地家屋營業及ヒ收入ナリ市町村稅目  
市町村稅ハ金錢ヲ以テ徵收スルヲ通常トスルモ其他必要ニ應シ人夫又ハ現品  
ヲ徵收スルコトアリ即チ夫役現品是ナリ

(A) 市町村有ノ財産ヨリ生スル收入  
(B) 市町村ニ對スル寄附金

(C) 市町村ノ負債 市町村ハ負債ヲ償還シ或ハ市町村永久ノ利益ト爲ルヘキ  
支出ヲ爲スカ爲メ又ハ天災地變等已メテ得タル場合ニ限リ負債ヲ爲スコトヲ  
得ルモノナリ其他會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スルヲ條件トシテ一時ハ借入  
金ヲ爲スコトヲ得ルモノ一時ノ借入金ハ將來ニ負擔ヲ殘ナサルカ故ニ之ヲ一般  
ノ負債ト同一ニ看做サス即チ負債ハ永遠ニ負擔ヲ殘スヘキモノナルカ故ニ之  
ヲ爲スコトハ內務大臣ノ許可ヲ要スルモノ一時ノ借入金ニ付テハ然ラナ  
ルナリ

第三 會計 市町村ハ會計ニ共同ニ與スルモノナリ 市町村ハ會計ニ共同ニ與スルモノナリ  
市町村ハ會計年度ニ國庫ノ會計年度ト同シテ其各年度ノ豫算ハ毎年之ヲ定メ  
豫算外又ハ豫算外超過ノ支出ヲ爲スル必要アリハ豫備費ニ依ルカ又ハ市  
町村會ノ議定ヲ經テ之ヲ豫算外ニ算入スルモノナリ市町村會ハ豫算外ノ豫  
市參事會及ヒ市町村會ハ市町村會ノ豫算外ノ豫算外ノ豫算外ノ豫算外ノ豫  
市參事會市町村會ハ市町村會ノ豫算外ノ豫算外ノ豫算外ノ豫算外ノ豫  
ハ支出スルモノト爲メ又總令市參事會市町村會ハ市町村會ノ豫算外ノ豫  
市參事會市町村會ハ市町村會ノ豫算外ノ豫算外ノ豫算外ノ豫算外ノ豫

行政法 行政機關 自治公共團體 普通公共團體

トキハ又之ヲ支出スルニ關シテハ、若シ命令ナクシテ支出スルハ、違法ノ命令ニ基キテ支出ヲ爲シタルハ、其ノ收入役ノ責任ニ歸スルモノナリ。又年度経過後一定ノ時期内ニ必ズ決算ヲ爲スベキモノニシテ、其決算豫算ノ議決權ヲ有スル市町村會ニ報告スベシ。而シテ市町村ニ於テ決算ヲ不當ニ認メタルトキハ、其意見ヲ監督官廳ニ上申スベキモノナリ。又、第四條市町村ノ財產、會計手続ニ關シテ、其若手則ハ、預算ハ、決算ハ、出  
(イ) 市町村住民ノ直接ノ共同ニ供スルモノ 例ヘハ入會ノ山林、入會ノ牧場等ノ如シ

(ロ) 市町村全體ノ用ニ供スル財產 例ヘハ役場ノ建物、役場ノ敷地及道路  
(甲) 市町村直接ノ公用ニ供スルモノ 例ヘハ役場ノ建物、役場ノ敷地及道路ノ敷地等ノ如シ  
(乙) 市町村ノ收入ノ源ト爲ルモノハ、例ヘハ市町村有ノ山林、田畑等ノ如シ  
物品經濟ノ時代ニ於テハ、市町村ニ共用財產多クシテ、其後收入財產漸次増加シ之ト反比例ニ共用財產ハ減少シ今日ノ市町村經濟ノ基礎ト爲ルモノハ主ト

雜 報

○外國人ト共有セル船舶ノ賣却 日本船舶ノ簡人トシテハ、全ク外國人ト所有若シハ共有ニ屬スルコトヲ認メス必ズ日本臣民ノ專屬タルモノト要スルモノトス。船舶法第一條第一項第四號然ルニ事實上内外人共有ノ船舶カ日本ノ船舶トシテ日本船舶トシテ登録セラルモノヲ其名義上ノ所有者タル日本人カ其專斷ヲ以テ之ヲ他ニ賣却シタルトキハ冒認罪若クハ受寄物費消罪等ノ犯罪ヲ構成スベキカハ一ノ疑問ニ屬スルカ如シト雖モ法律ノ眼ヨリ觀レバ日本船舶ハ絕對的ニ日本人簡人トシテノミニ屬スルモノトスルカ故ニ縱令事實上外國人ト所有又ハ共有ニ屬スルモ法律ハ斯ル法網ヲ潛ル者ヲ保護スルノ必要ナキ同同時法律上ノ所有者ヲ行爲可否認限ルヲ要セサルナリ。我大審院ハ右ノ問題ニ對シ穩健ナル論議ヲ以テ、原判決(曼崎控訴院)破毀シ無罪ヲ宣告ヲ爲シ且曰、船舶法第一條ニ依ルトキハ日本ノ船舶ハ日本臣民ノミ所有シ得ヘタ外國人ハ日本船舶ノ單獨ノ所有者タルコト能ハサルハ勿論日本船舶法其有若シハ其時分ヲ

有スルコト能ハサルヤ明カナリ然レトモ船舶法ハ日本船舶ノ所有ヲ外國人ニ  
禁スルニ止リ絶對ニ外國人ノ船舶所有權ヲ否認シタルニハアラザルヲ以テ我  
國法ノ下ニ於テモ外國人ノ船舶所有權ヲ認メサルヘカラスアルハ勿論ニシテ日  
本臣民ノ所有ニ係ル船舶ト外國人ノ所有ニ係ル船舶トノ間ニ存スル差異ハ一  
ハ日本ノ船舶トシテ我國法ノ保護ヲ受クルコトヲ得ルモ他ハ日本ノ國籍ヲ有  
セサル船舶トシテ日本船舶ニ固有ナル利益ヲ享受スルコトヲ得サルノ點ニ存  
スルノミ是ヲ以テ日本ノ臣民カ其所有ニ係ル日本船舶ノ所有權ヲ外國人ニ讓  
渡シタルトキハ其船舶ハ日本船舶タルノ資格ヲ喪ヒ讓受人タル外國人ハ日本  
ノ國籍ヲ有セサル船體ノ所有權ヲ取得スヘク日本ノ臣民カ其所有ニ係ル日本  
船舶ノ持分ヲ外國人ニ讓渡シタル場合ニ於テモ亦タ同一ノ效果ヲ生スヘク持  
分ノ讓渡ト共ニ其船舶ハ日本船舶タルノ資格ヲ喪失シ日本臣民及外國人ニ於  
テ日本ノ國籍ヲ有セサル船體ノ所有權ヲ共有スルコトトナルヘシ總テ是等ノ  
場合ニ於テ日本ノ臣民ト外國人トノ間ニ爲サレタル日本船舶ノ所有權又ハ其  
持分ノ讓渡行爲ハ有效ニシテ船舶ニ關スル權利ヲ移轉シ又ハ變更スルノ效果

ヲ生スヘク唯タ其船舶ハ主體ノ變更ト共ニ日本ノ國籍ヲ喪失シ爾後日本船舶  
トシテ我國法ノ保護ヲ受クルコト能ハサルニ過キス故ニ内外人カ當初ヨリ船  
舶ノ所有權ヲ共有シ又ハ日本臣民カ單純ニ其所有スル日本船舶ノ持分ヲ外國  
人ニ讓渡シタル場合ニ其船舶ハ縱シ日本ノ國籍ヲ有セサルモ其船舶ヲ保管セ  
ル共有者ノ一人カ其「己ノ意志ヲ以テ擅ニ之ヲ處分シタルトキハ委託物費消  
罪ヲ構成シ刑法第三百九十五條ニ規定スル刑罰ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス  
ハ勿論ナリ然レトモ日本臣民カ日本船舶ヲ所有スル場合ニ船舶ノ所有權タル  
日本臣民ト外國人トノ間ニ於テ其船舶ヲ表面上日本船舶トシテ共有スルコト  
ヲ契約シタルトキハ其契約ハ少クモ契約ノ目的タル船舶ノ權利ヲ移轉スルノ  
效果ヲ生スヘキヤ是レ本訴ニ於テ決スルコトヲ要スル極メテ重要ナル點ナリ  
トス蓋シ我國船舶法ニ於テ日本船舶ノ所有權ヲ日本臣民ノミニ許シ外國人ノ  
爲メニ此權利ヲ認メタルハ我國海運業ノ保護獎勵ヲ目的トスル等公益上ノ理  
由ニ基ツキタルモノニシテ日本臣民個個ノ利益ヲ保護スルカ爲メアラサル  
コトハ敢テ説明ヲ要セサル所ナルヲ以テ日本船舶ノ所有權トシテ國法上ノ利



益ヲ享受スル日本臣民ハ其己ノ意志ヲ以テ外國人ノ爲メ其利益ヲ處分シ外國人ト其其利益ヲ分ツコトヲ得ルハ明カナリ左スル日本臣民カ其所有スル船舶ヲ日本ノ船舶トシテ外國人ト其有スル船舶トシテ其契約ハ國法上日本船舶ノ資格ナキ内外人ノ共有船舶ヲ日本船舶トシテ其効ヲ生セサルハ勿論其契約ハ不法ノ契約ニシテ絕對ニ其効ヲ生セサルヲ以テ當事者間ニ於テ契約ノ目的タル船舶ノ權利ヲ移轉スルノ效果ヲ生セサルモノトス抑モ内外人カ一ノ船舶ヲ共有スル場合ニ其船舶ハ日本船舶トシテ我國法ノ保護ヲ受クルコト能ハサルハ前既ニ説明スル所ニ依リテ明カナリ然ルニ日本臣民カ一ノ日本船舶ヲ所有スルニ當リ外國人ト契約シ表面上日本船舶トシテ之ヲ共有セシトスルハ日本ノ船舶タルノ資格ナキ船舶ニ對シ日本船舶ニアラナレハ享受シ得ヘカラサル國法上ノ利益ヲ得ント希圖スルモノニシテ其契約ハ即チ公益上ノ理由ニ基ツテ國法ノ禁令ヲ回避スルヲ目的トスル極メテ不法ノモノナレハ民法第九十條ニ所謂公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ニ該當シ全然無効ニシテ何等ノ效力ヲ生セサルヲ以テ契約ノ當事者タル

外國人ニ於テ其船舶ノ共有權ヲ取得スルコトヲ得サルハ明カナリ尤モ此場合ニ於テ當事者間ノ契約中其有權ノ讓渡ニ關スル部分ハ其効ヲ生シ唯タ表面ニ日本船舶トシテ共有スルノ契約ノミ無効トナルヘキモノト論スルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ契約ノ主旨カ日本ノ船舶トシテ之ヲ共有スルニ在リ共有ノ初メヨリ國法ノ禁令ヲ回避スルコトヲ目的トシタルモノタル以上其契約ハ全部無効ニシテ其契約ヲ分割シ其一部ヲ有效トシ他ノ一部ヲ無効トナスコトヲ得ス果シテ然ラバ日本船舶ノ所有者タル日本臣民ハ此契約ニ拘ハラズ依然トシテ其船舶ノ單獨ノ所有者ニシテ法律上其船舶ヲ支配スルノ完全ナル權能ヲ有スルヲ以テ其船舶ヲ處分スルハ正當ナル權利ノ行使ニシテ何等ノ犯罪ヲ構成セサルモノトスルハ(大審院明治三十七年四月十日第二刑事部判決)ニ對シテ對スル一箇ノ偽證ニ對シテ數罪ト區別シ傳テス學者ノ見解一途ニ出テタル所ニシテ或ハ犯罪ヲシテ法規定ノ應シテ犯罪ヲ成立ト曰ヒ(ビレヤン)或ハ一所爲ニ罪ヲ成立スル原則トシ立法上數所爲ニ罪ト認ムルコトヲ訪ケバト論ス(リ)ト我大審院ハ後説ヲ採ラバ明治三十四年十一月二十六日

同年十二月十四日三十五年四月十四日判決及同年十二月八日續報二十五頁  
 本年二月二十七日同五〇頁等ノ判決ニ據リテ明カニ然ヘル今又大審院ニ一報  
 告人ノ重罪及ヒ輕罪ヲ曲庇セシカ爲メ偽證ヲ爲シテ犯人對シテ數罪ヲ以  
 テ檢知セシメ原判決廣島控訴院ヲ破毀シテ原院ノ認定シタル罪ニ依リハ本  
 治廳及被告人トシテ訊問ヲ受ケル當ニ付七ノ曲庇スル爲メ一箇ノ供述ヲナシ  
 面シテ半七ノ被告事件重罪輕罪ノ二箇罪カ爲メ一面ハ刑法第二百十八條  
 第一號ニ該當シ面ハ第二號ニ當リ乃チ該條ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ヲ觸レ  
 ルモノナラズ然レモ其行爲ノ結果ニ付テ觀察スルニモ一罪半七ノ人ニ對シ  
 ル裁判ヲ觀シシムニ當テ被害ヲ生シタル經過ヲ以テ始モ一聯數箇ノ創傷ヲ負  
 ハルヲ以テ犯人ヲ將テ本所場合ニ異ナルヨリトナシ凡ソ行爲及ヒ其結果ノ單  
 ナル場合ニ在テハ制裁ニ於テモ亦單ニ一箇ヲ以テテ可キモノナル事理ニ當  
 然ナルヲ刑法ノ目的亦蓋シ之ニ外ナラズ然ルナリト(大審院公報明治三十六年(乙)第三  
 十六號附錄及附誌三刑事明治三十五年(乙)第三十六號附錄及附誌三刑事明治  
 三十六年四月二十八日附誌三刑事明治三十五年(乙)第三十六號附錄及附誌三刑事  
 明治三十六年四月二十八日附誌三刑事明治三十五年(乙)第三十六號附錄及附誌三刑事)

同年十二月十四日三十五年四月十四日ノ判決及ヒ同年十二月八日雜報二五頁  
 本年二月二十七日同五〇頁等ノ判決ニ據リテ明カナルヘシ今又大審院ハ一被  
 告人ノ重罪及ヒ輕罪ヲ曲庇センカ爲メニ偽證ヲ爲シタル犯人ニ對シ數罪ヲ以  
 テ論シタル原判決廣島控訴院ヲ破毀シテ曰ク原院ノ認定シタル所ニ依レハ太  
 治見カ證人トシテ訊問ヲ受クルニ當リ半七ヲ曲庇スル爲メ一箇ノ供述ヲナシ  
 面シテ半七ノ被告事件ハ重罪輕罪ノ二箇アルカ爲メ一面ハ刑法第二百十八條  
 第一號ニ該リ一面ハ第二號ニ當リ乃チ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レタ  
 ルモノナリ然レトモ其行爲ノ結果ニ付キ觀察スルキハ單ニ半七一人ニ對ス  
 ル裁判ヲ誤ラシムヘキ危害ヲ生シタルニ過キスシテ恰モ一聯數箇ノ創傷ヲ負  
 ハシメ以テ一人ヲ害シタル場合ニ異ナルコトナシ凡ソ行爲及ヒ其結果ノ單一  
 ナル場合ニ在テハ制裁ニ於テモ亦單ニ一箇ヲ以テス可キノナルハ事理ノ當  
 然ニシテ刑法ノ目的亦蓋シ之ニ外ナラサルナリト(大審院明治三十六年(己)第三  
 行便部取財及偽證事件明治三十  
 六年四月二十八日第二判事部宣告)

# 法學志林

第四十四號  
 六月十五日發行

一、部定價金十二錢郵稅一錢十  
 部外定價金一圓二十錢  
 郵稅共一圓十錢郵稅共一圓十錢

◎本誌ハ本誌ヲ大改題ヲ加ヘ掲載事項ヲ精選シ紙數ヲ増加シタリ

## 志林

◎最近判例批評其九  
 ◎自體下手未遂ノ處罰  
 ◎株式會社ノ總會決議ノ無効宣告アリトスル手續規定  
 ◎大日本

## 解疑

◎買賣代金不支拂ノ爲メ再販賣ニ付シタル代  
 ◎金ノ賦課ヲ生シタル場合ニ於テハ差額請求權  
 ◎手形上ノ債務ハ連帶債務ナリヤ  
 ◎無遺物規則ノ性質  
 ◎命令ト公權トノ設定  
 ◎船舶所有權ト國際私法及ヒ國際用法トノ關係  
 ◎船舶所有權者ト荷送人ニ對スル運送狀ノ請求

## 散錄

◎徵錄ノ尻尾  
 ◎法人ノ理事ハ定款ノ規定ニ違反セル雖  
 ◎會ノ決議ニ從フ職務アリヤ否ヤニ付テ

## 寄書

◎法人ノ理事ハ定款ノ規定ニ違反セル雖  
 ◎會ノ決議ニ從フ職務アリヤ否ヤニ付テ

發行所

和佛法律學校

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

龍美房木部

